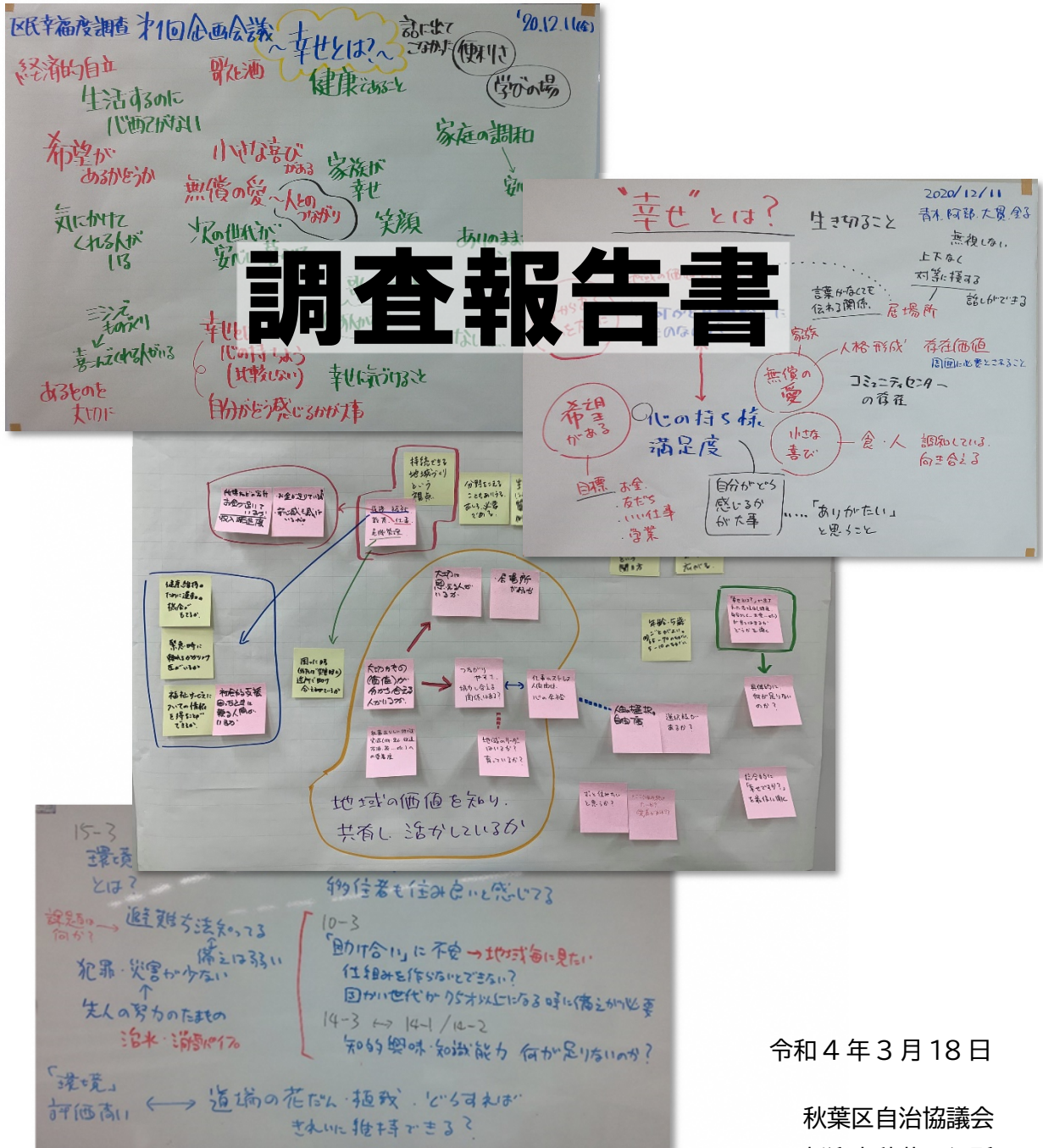


令和3年度(2021年度)

# 秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査(秋葉区民幸福度調査)



令和4年3月18日

秋葉区自治協議会  
新潟市秋葉区役所  
大正大学地域創生学部金子研究室

写真：調査部会におけるワークショップの成果品

# 秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査(秋葉区民幸福度調査)調査報告書

## 目次

1. 調査の目的	1
2. 調査のプロセス	1
3. 調査主体および実施体制	3
4. 調査結果の概要とポイント分析	4
5. 調査結果	
回答者属性	6
秋葉区は住み良いか	9
秋葉区に住み続けたいと思うか	10
秋葉区に愛着があるか	11
あなたは現在幸せか	12
住み良さや幸せとは何か	13
健康と仕事	14
困った時の備え・助け合い・人間関係	15
社会参画・子育て・文化的な暮らし	16
環境・安心・安全	17
生活の利便性・自分らしい生き方	18
中学生対象調査の結果概要	19
6. 総括	20

# 1. 調査の目的

新潟市秋葉区は、豊かな自然と歴史文化、鉄道や石油・花などの特徴的な地域資源、交通体系や文化施設などの公共インフラに恵まれた、とても魅力的なまちです。また、人々は情が厚く、交流も盛んで、常に多くの市民が地域を元気にするために自ら活動する活発な住民性を有しています。それでは実際に、そこに住む市民は「秋葉区で暮らすことの幸せ」をどのように感じているのでしょうか？このプロジェクトは、そんな素朴な疑問からスタートしました。

模索と検討を重ねる中で、区民の生の声をアンケート調査により可視化する、という方法に辿りつきました。そこで掲げた調査の目的は、以下の二点です。

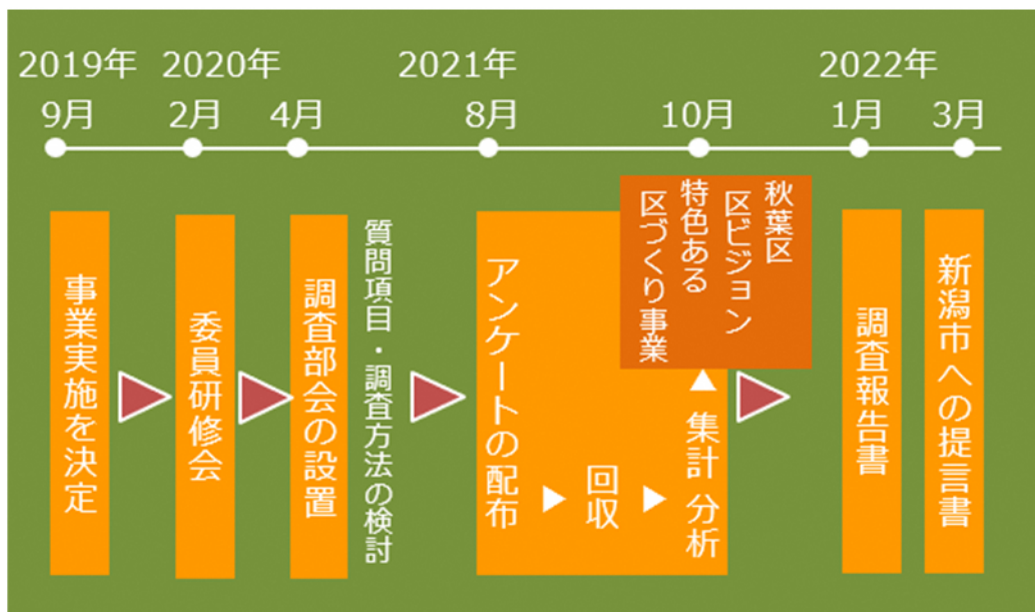
- (1) 区民自らが「秋葉区に暮らす幸せ」とは何かを考え、地域の資源と強みを再評価すると共に、地域の魅力を内外に発信するための材料を得る
- (2) 地域の課題を明らかにし、新潟市政および秋葉区政に反映させると共に、秋葉区自治協議会の事業立案の参考にする

行政（秋葉区役所）と市民（区自治協議会）の協働プロジェクトである本調査の結果は様々な活用が期待されます。まずは、秋葉区における「特色ある区づくり予算」の編成や、次期新潟市総合計画（2023-2030）の策定に伴う「秋葉区 区ビジョンまちづくり計画」策定の基礎資料とすることを想定しました。

# 2. 調査のプロセス

調査を進めるに当たり、秋葉区自治協議会の中に有志による「幸福度調査部会」を設置しました。アンケートの方法や調査票の設計、発送、回収、分析までを自分たちの手でやることにより、調査主体である私たち自身も秋葉区について改めて思いを巡らせ、その強みや課題について深く考えるよい機会となりました。また、調査票の設計を効率よく進めるために、住民アンケートやワークショップのノウハウを持つNPO法人まちづくり学校（新潟市西区）に会議のコーディネートを依頼しました。

調査対象は2021年4月時点で秋葉区に住む15才以上とし、無作為抽出による2,000人に調査票を送付しました。調査票の表題は、語感による誘導を避けるため「秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査」としました。また、回答は調査票の返信のほか、QRコードからWEB上のアンケートフォームにアクセスをして回答することも可能としました。さらに、無作為抽出以外の住民にもアンケートに答えてもらえるように、WEBフォームでの回答を一般募集する期間も設けました。



## 調査の方法、日程および回答数

### (1) 調査票の発送による調査

期 間 令和3年8月10日発送～8月末締切

対象者 令和3年4月時点で秋葉区在住15才以上の中から無作為抽出された2,000人

回答数 892件（うちWEBフォームでの回答 115件）

回答率 44.6%

### (2) WEBフォームによる一般募集

期 間 令和3年9月6日～10月8日

回答数 143件

### (3) 中学生対象調査（WEBフォームでの回答）

期 間 令和3年9月7日～10月8日

対象者 令和3年4月時点で秋葉区内の中学校に通う中学生1,966人

回答数 478件

回答率 24.3%

※この報告書では上記(1)(2)の結果を基に集計・分析しています。

中学生対象調査の結果は19ページに概要をご紹介しますのでご参照ください。

## 本調査における倫理的配慮について

調査票には本研究の目的と内容、プライバシーポリシーを明記しました。調査票の回収をもって調査協力への同意を得たものとします。

### 3. 調査主体および実施体制

本調査は、新潟市秋葉区の「特色ある区づくり予算」における「自治協議会提案事業」の一環として実施されたものです。調査方法の検討から調査票の設計、配布・回収・分析、報告書作成に至るまで、区役所職員と自治協議会委員の協働作業により進められました。

調査主体： 秋葉区自治協議会  
新潟市秋葉区役所

調査協力： 大正大学地域創生学部金子研究室

調査協力（委託）： NPO 法人まちづくり学校

調査の計画及び実施  
調査結果のとりまとめ

アンケート結果のデータ化  
集計・分析資料の作成

調査部会ワークショップの進行と  
調査票設計コーディネート

#### 秋葉区自治協議会 幸福度調査部会メンバー

金子 洋二（部会長）

長谷川 啓子（副部会長）

荒井 武雄

伊藤 治好

大貫 弘美

坂口 憲夫

保科 代志夫

渡邊 彩

阿部 光子（令和2年度部会員）

小林 俊介（令和2年度部会員）

本田 富義（令和2年度部会員）

## 4. 調査結果の概要とポイント分析

調査結果の中でも特に顕著な点や調査目的に照らして重要なポイントを以下に挙げます。尚、この調査では全 52 項目に渡って様々な視点から区民の意識を伺いました。項目ごとの単純集計や項目間のクロス集計が次章「調査結果」にありますので、併せてご覧ください。

- 【1】 秋葉区を「住みよい」とした人は 68%で、逆に「住みよいと思わない」とした人は 7%だった。回答者は秋葉区出身者が約半数であったが、移住者も含めた多くの人が住みよいと感じていることが窺える。(p9 問 2)
- 【2】 秋葉区を「住みよい」とした理由の上位は「災害が少ない」「交通上の利便性」「買い物や食事に便利」「自然豊かである」「犯罪が少ない」の 5 つが顕著であった。「災害が少ない」が挙がる背景には、河川の治水対策や消雪パイプの設置など、先人が行ってきた災害対策の成果があると考えられる。(p13 問 2)
- 【3】 秋葉区に住み続けたいとした人は全体で 71%だが、性別、年代別、居住地区別、出生地別で違いが目立ち、特に 20 代の若者は 4 割程度しかいない。(p10 問 3)
- 【4】 秋葉区に愛着がある人は全体で 61%だが、性別、年代別、居住地区別、出生地別で大きな違いがあり、特に年代別では最大 42 ポイントの開きがある。(p11 問 4)
- 【5】 「幸せにとって重要なこと」は「健康」が最も多く、次いで「家族のつながり・調和」、「所得などの家計」が多かった。それぞれを満足度（「満足・ほぼ足りている」の割合）で見ると「健康」58%、「家族のつながり・調和」77%、「所得などの家計」41%となり、「家族のつながり・調和」が高い満足度を示している反面、「所得などの家計」では不満が満足を上回っている現状がわかった。(p13 問 7)
- 【6】 秋葉区は仕事が見つかりやすく就業しやすい環境だと思うかの問いに、「思う」「まあ思う」が 12%、「思わない」「あまり思わない」が 38%と、**就業環境に課題**があることが窺える。(p14 問 9-3)
- 【7】 住んでいる地域では困った人への助け合いはできていると思うかの問いに「思う」「まあ思う」が 31%、「思わない」「あまり思わない」が 20%、「わからない」と「どちらともいえない」を合わせると 49%と、**地域の助け合いについてはやや心配な結果**となった。また、この割合を地区別に見ると最大で 10 ポイント程度の開きがある。(p9, p15 問 10-3)

- 【8】 「秋葉区は安心して子どもを産み育てられるまちだと思うか」では「思う」「まあ思う」の合計が53%だった。同様に「秋葉区には子育てや教育に関するサービスや施設、相談できる機会が整っているか」は35%、「秋葉区は子どもたちが生き生きと育つ環境があるか」は52%であり、**子育て環境については課題**があると感じている区民は少なくないことが窺える。(p16 問 13-1, 13-2, 13-3)
- 【9】 秋葉区内の文化施設に行ったことがある人が92%を占める一方で、**歴史文化や芸術に接したり取り組む機会**があると思う人は57%、**知的興味や知識能力を伸ばす機会**が整っていると思う人は33%と、**施設利用と実感の間に乖離**が見られた。(p16 問 14-1, 14-2, 14-3)
- 【10】 日頃から**環境に配慮した生活**をしている人の割合は「している」「ほぼしている」を合わせて88%と極めて高い結果となった。(p17 問 15-3)
- 【11】 災害時の避難場所や避難方法を知っている人は91%に上るが、地域で行われる防災訓練等に参加している人は42%、災害に対する備えや話し合いを行っている人は24%と、**防災に関する知識と実践の間に大きな乖離**が見られた。(p17 問 16-2, 16-3, 16-4)
- 【12】 「幸せである」「まあまあ幸せである」は合わせて83%、「幸せではない」「あまり幸せではない」は合わせて4%であり、**高い幸福度**が示された。一方、クロス集計の結果、幸せを感じていることが必ずしも「住み良い」「住み続けたい」「愛着がある」といった地域に対する意識とリンクしていない現状も見えてきた。(p12 問 19)

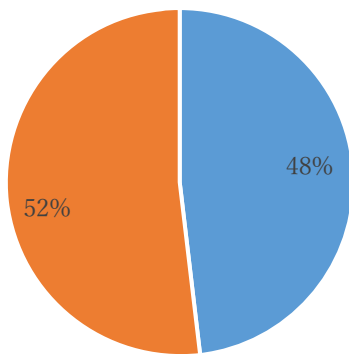
# 5. 調査結果

## － 回答者属性 －

回答総数 1,035 件

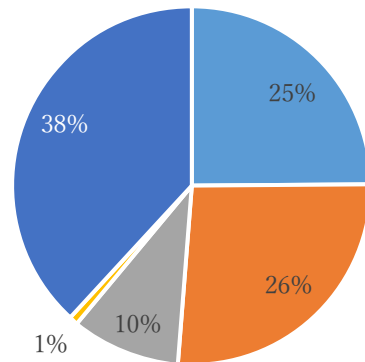
うち	男性	496 件 (48%)	秋葉区生まれ	503 件 (49%)
	女性	533 件 (52%)	秋葉区外生まれ	526 件 (51%)
	無回答	6 件	無回答	6 件

性別



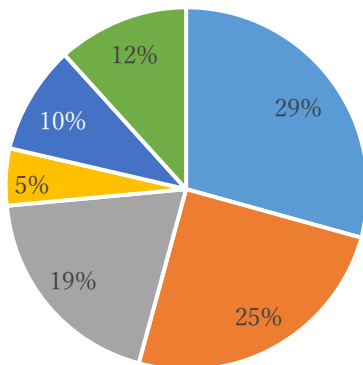
■ 男性 ■ 女性

通勤・通学先



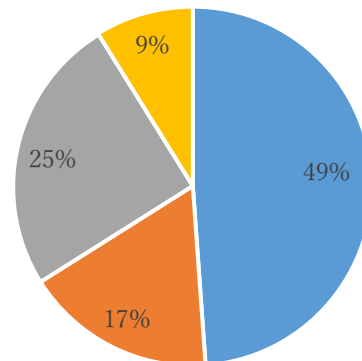
■ 秋葉区内 ■ 秋葉区以外の新潟市内  
 ■ 新潟市外(県内) ■ 県外  
 ■ なし・無回答

居住地区



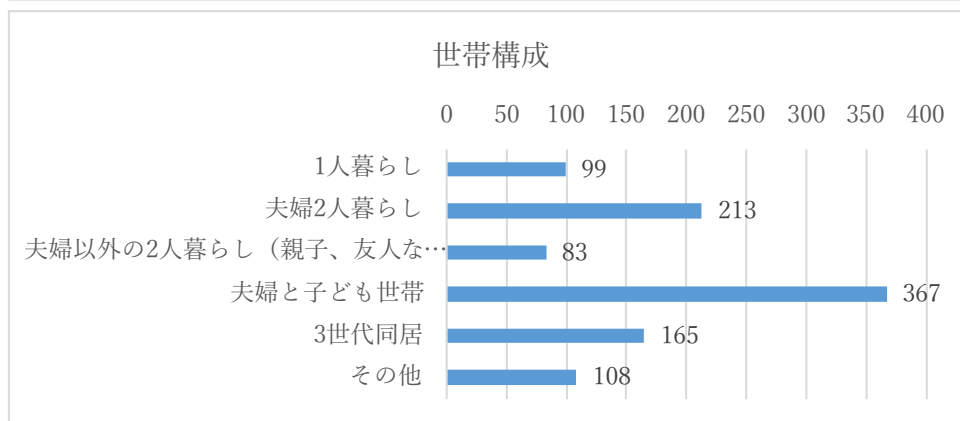
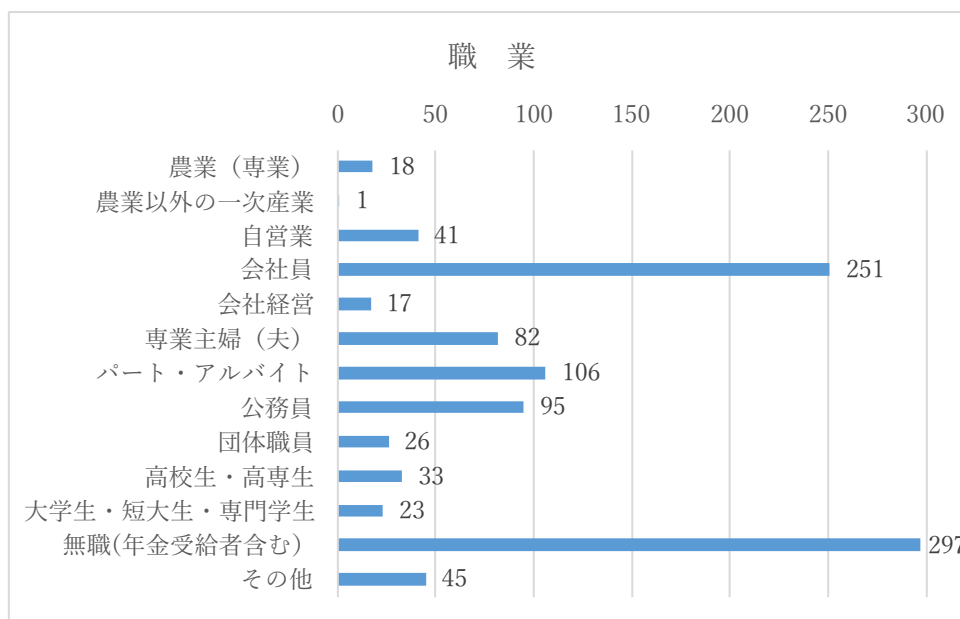
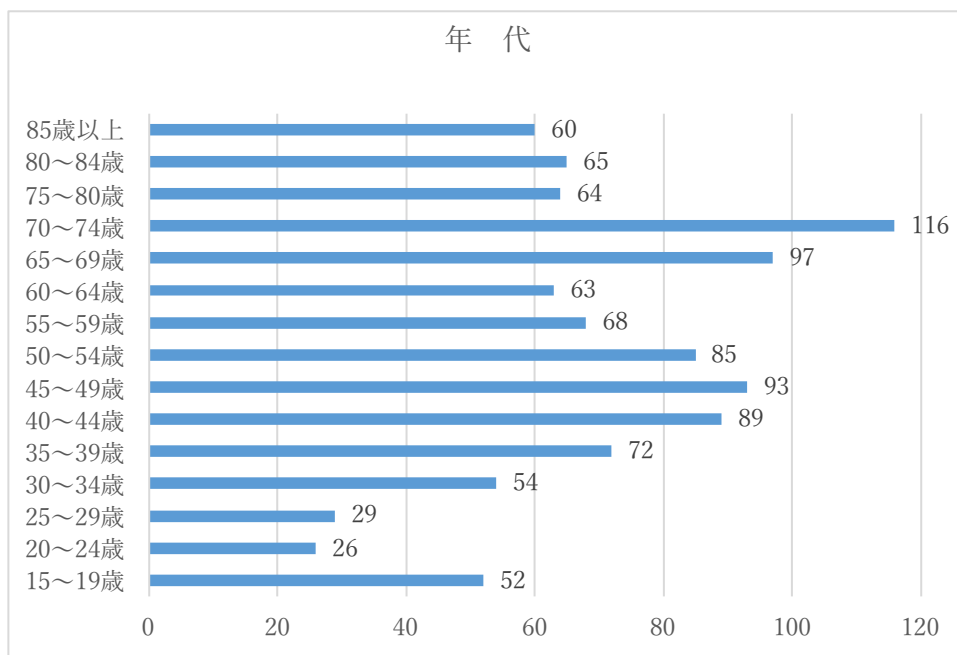
■ 新津第一中学校区 ■ 新津第二中学校区  
 ■ 新津第五中学校区 ■ 小合中学校区  
 ■ 金津中学校区 ■ 小須戸中学校区

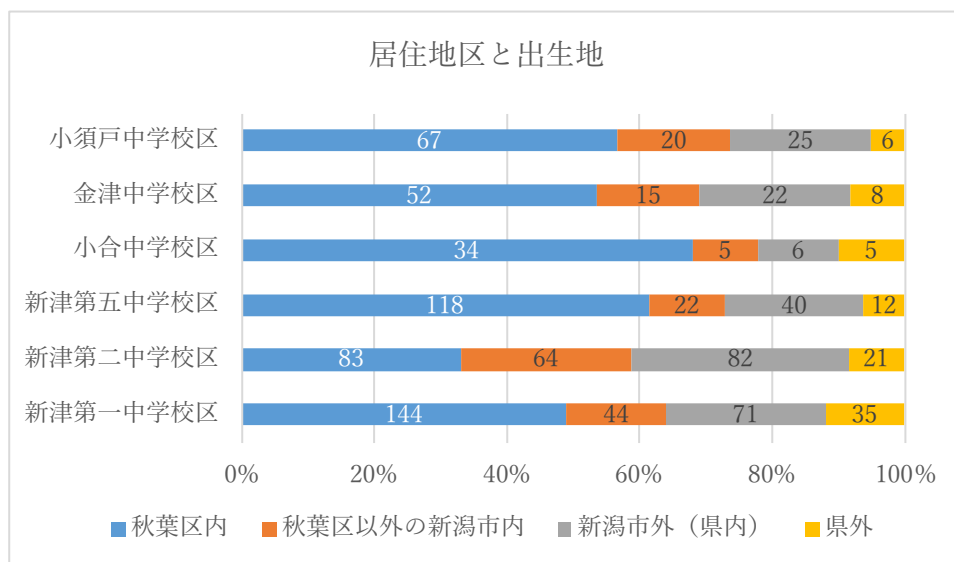
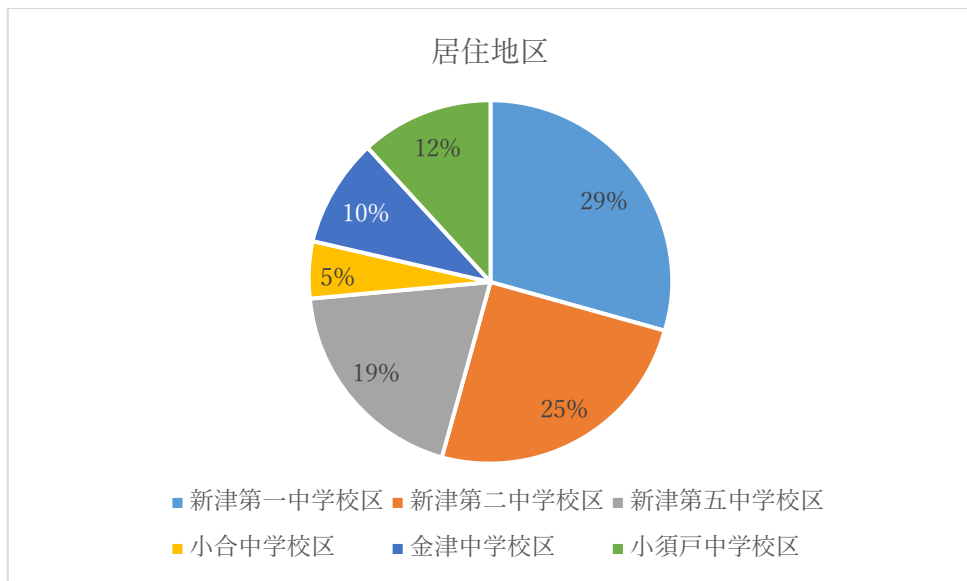
出生地



■ 秋葉区内 ■ 秋葉区以外の新潟市内  
 ■ 新潟市外(県内) ■ 県外



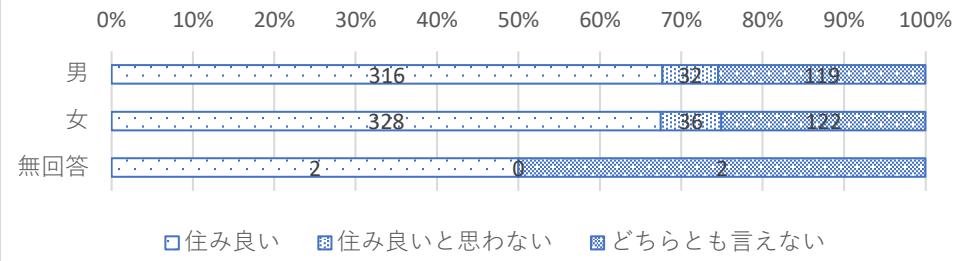




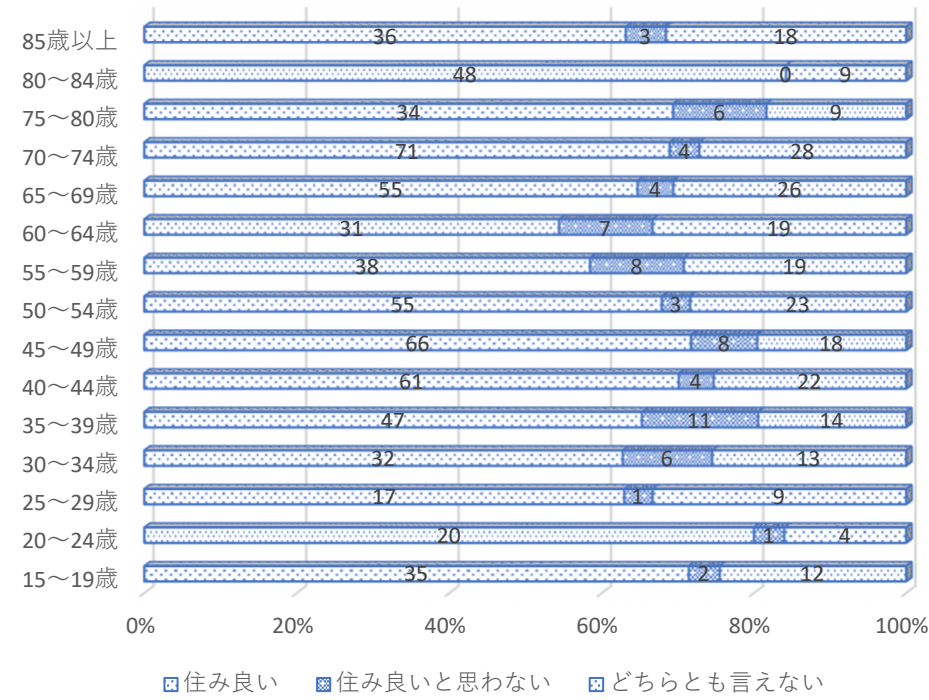
－ 回答者属性の特徴 －

- 通勤・通学先が秋葉区内にある人は4人に1人しかいない。
- 出生地が秋葉区内の割合は49%であり、全体の半分を下回っている。新津第二中学校区では秋葉区生まれの割合は33%と特に低い。
- 職業は「無職」（29%）と「会社員」（24%）が突出している。
- 世帯構成では「夫婦と子ども世帯」が全体の35%と最も多く、一方で「一人暮らし」世帯が1割近くに上っている。

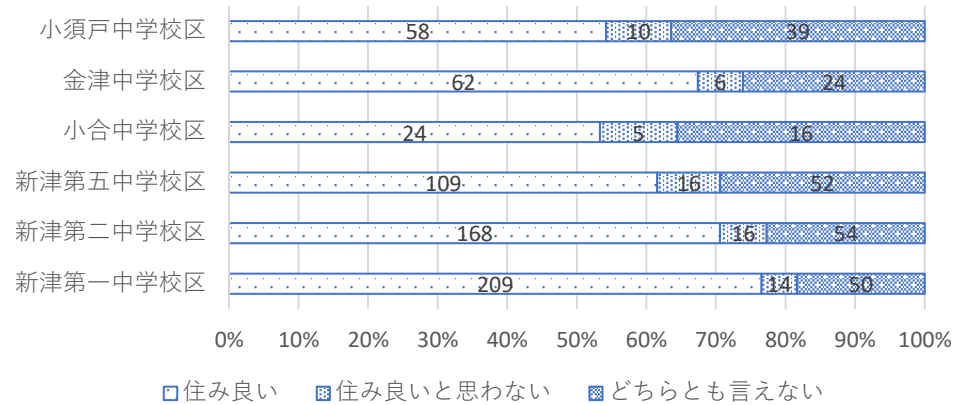
### 問2 秋葉区は住み良いか（性別）



### 問2 秋葉区は住み良いか（年代別）



### 問2 秋葉区は住み良いか（居住地区別）

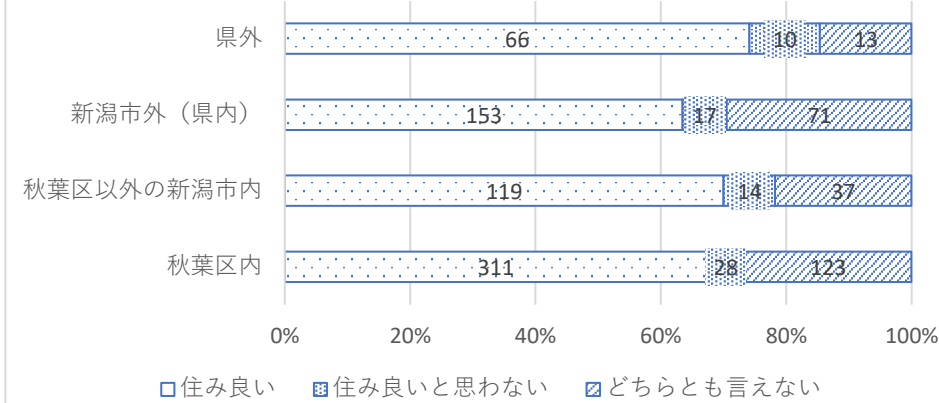


<問2>

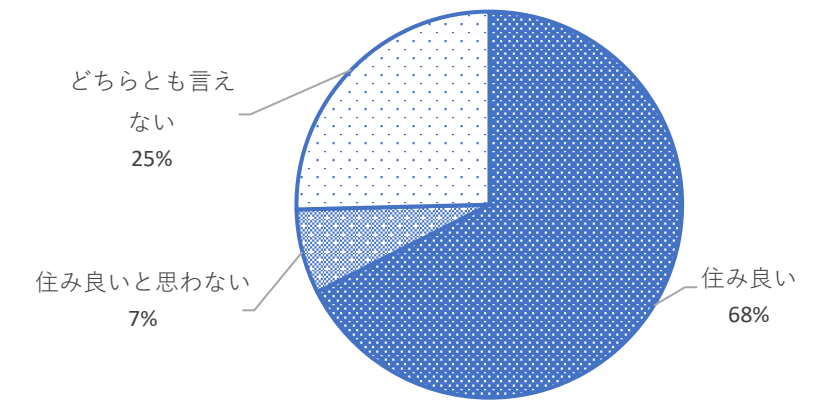
## 秋葉区は住み良いか

- 性別による差はほとんどない
- 80代前半と20代前半の値が高く、25～34歳と55～64歳の値が低い
- 居住地区により、「住み良い」の割合が53%～77%の開きがある
- 県外出身者が「住み良い」と答えた割合が若干高い
- 「住み良い」と「地域の助け合い」の間には一定の相関性が認められる（問10-3参照）

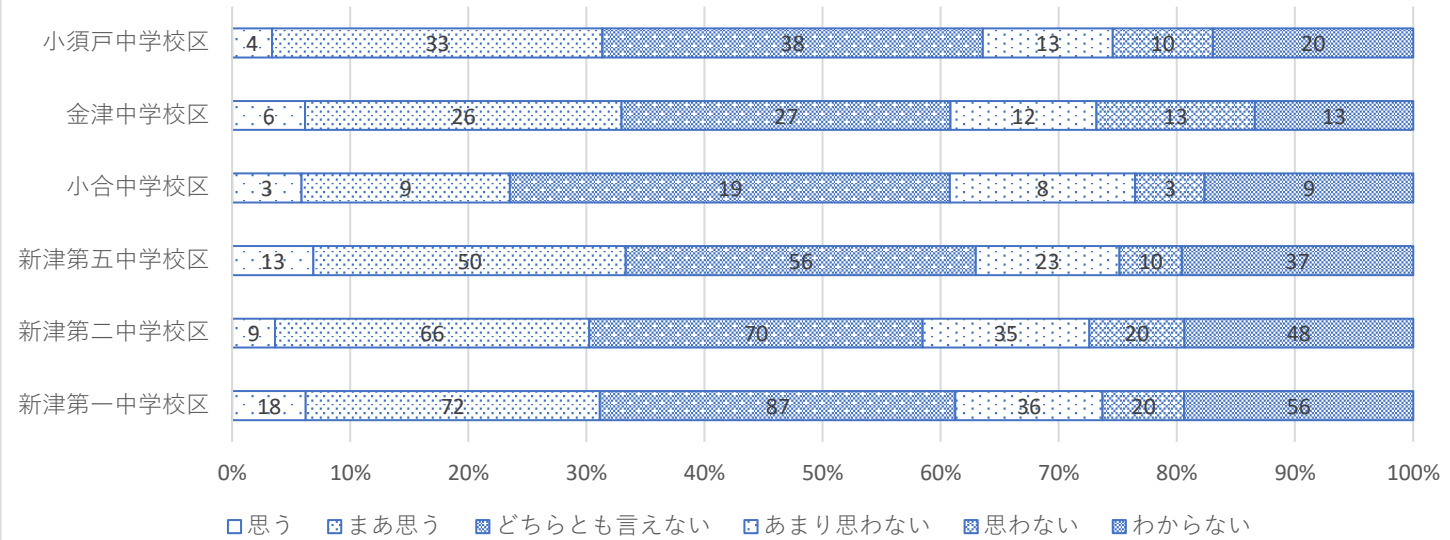
### 問2 秋葉区は住み良いか（出生地別）



### 問2 秋葉区は住み良いか



### 問10-3 住んでいる地域では困った人への助け合いはできているか（居住地区別）

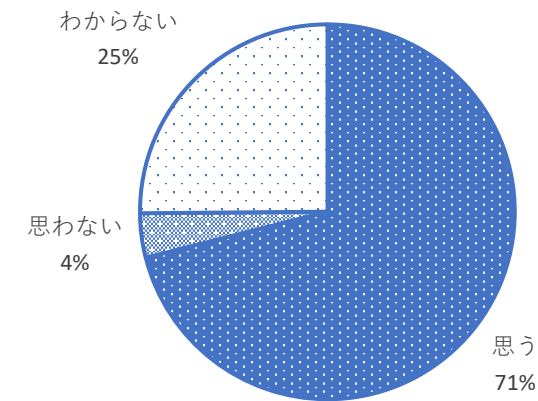


<問3>

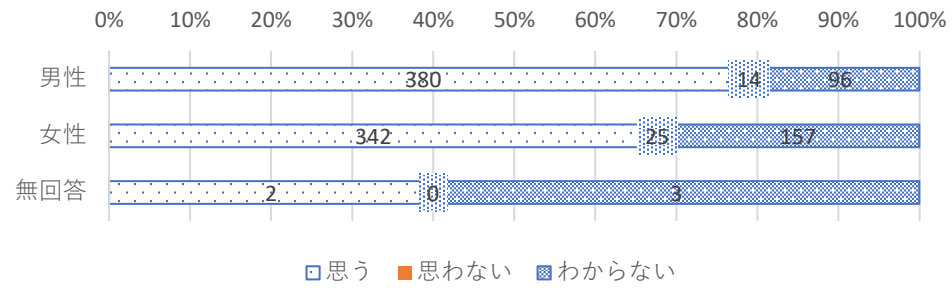
秋葉区に住みたいと思うか

- 男性（78%）の方が女性（65%）よりも住みたいと思っている人が多い
- 概して、年代が下ると「わからない」と答える傾向がある
- 特に20代の若者の「思う」が50%を下回る低い値となっている
- 居住地区により、「思う」の割合が63%～79%の開きがある
- 居住地区別の、「住み良い」と「（住みたいと）思う」の間に一定の相関性が認められる
- 秋葉区内で生まれた人は79%が「思う」と答えており、それ以外が60%台で明確な開きがある

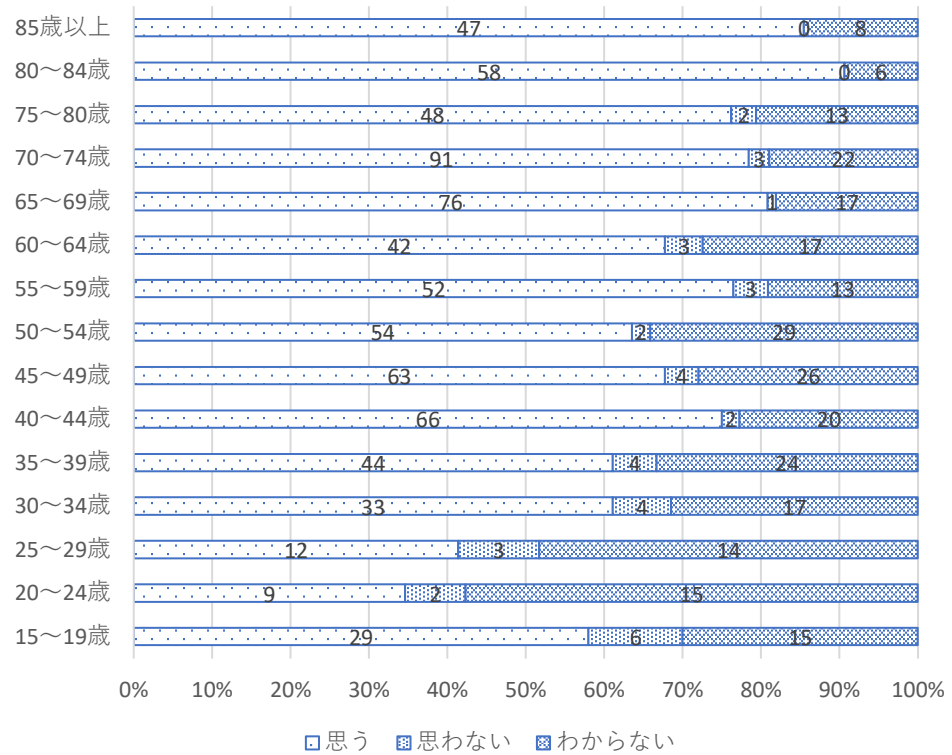
問3 秋葉区に住みたいと思うか



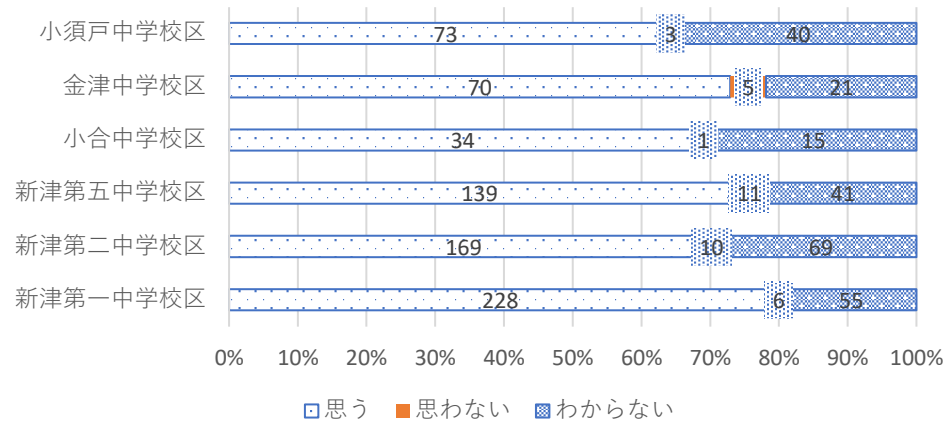
問3 秋葉区に住みたいと思うか（出生地別）



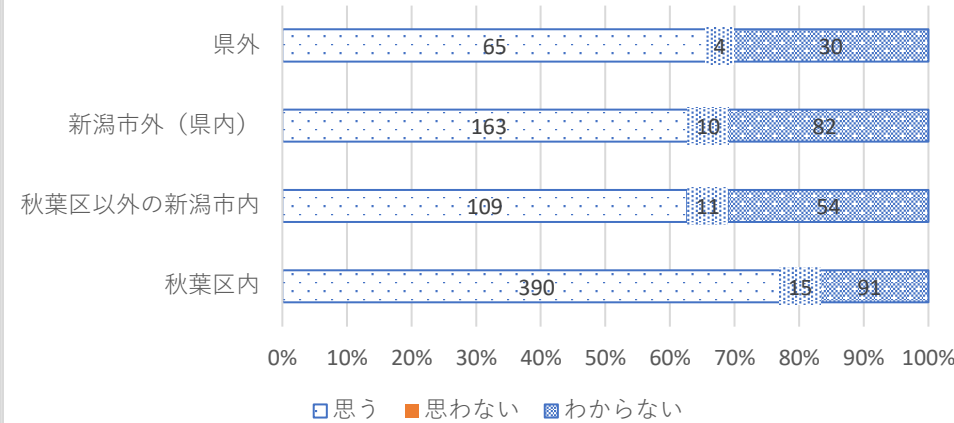
問3 秋葉区に住みたいと思うか（年代別）



問3 秋葉区に住みたいと思うか（居住地区別）



問3 秋葉区に住みたいと思うか（出生地別）

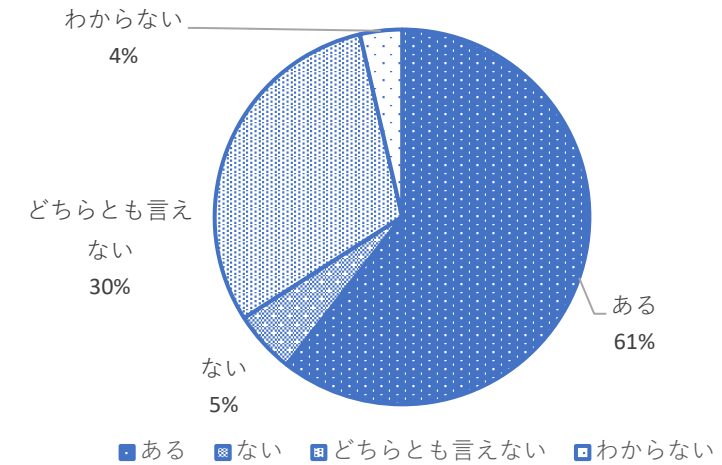


<問4>

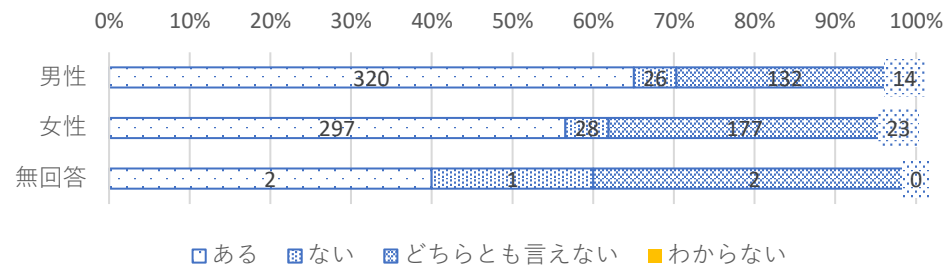
秋葉区に愛着があるか

- 65%の男性、57%の女性が「ある」と答えている
- 性別で見ると「住みたい」と「愛着」には明らかな相関性がある
- 15～24歳、70～84歳の層が特に愛着を感じていて、年代による差が大きい
- 25～29歳の若者の半分以上が「どちらとも言えない」または「わからない」と答えており、「ある」の割合は38%で最も低い
- 居住地区により、「ある」の割合が53%～69%の開きがある
- 出生地別では、秋葉区内生まれの72%が「ある」と答えており、最も愛着が高い
- 県内よりも県外からの移住者の方が高い愛着（61%）を示している

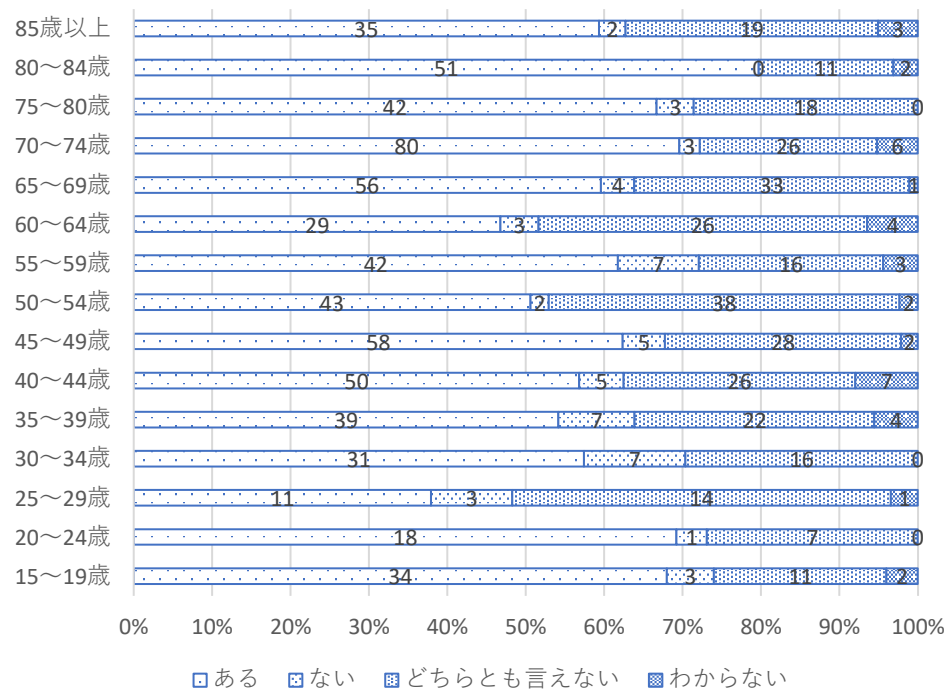
問4 秋葉区に愛着があるか



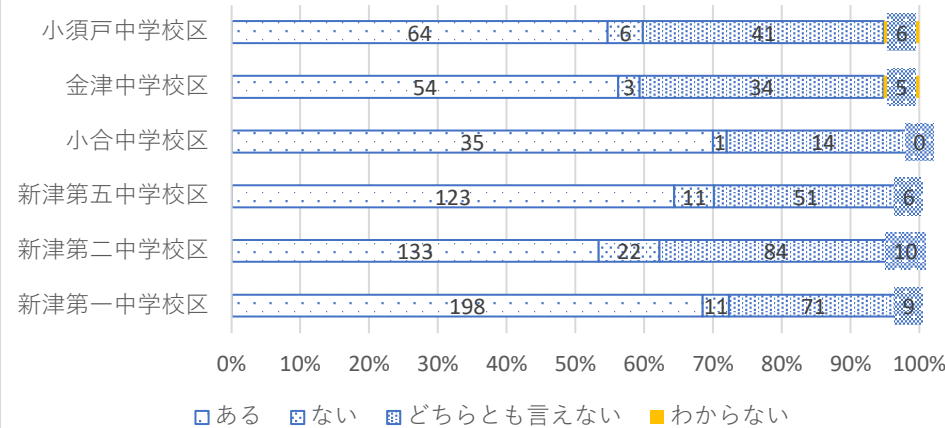
問4 秋葉区に愛着があるか（性別）



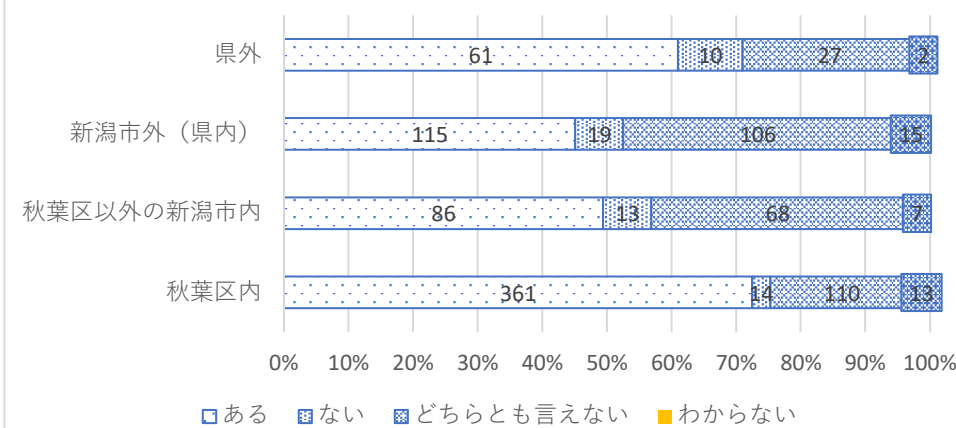
問4 秋葉区に愛着があるか（年代別）



問4 秋葉区に愛着があるか（居住地区別）



問4 秋葉区に愛着があるか（出生地別）



<問19>

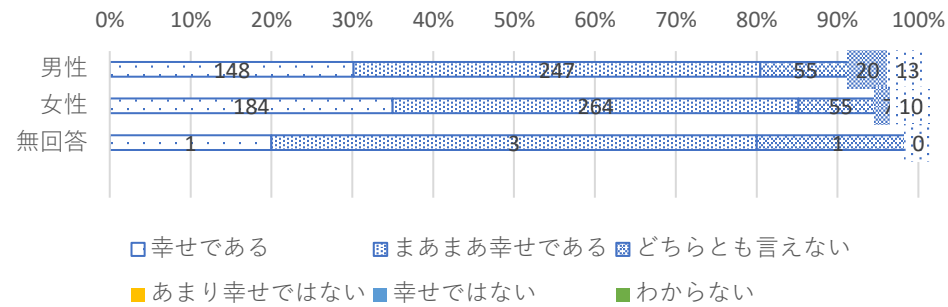
## あなたは現在幸せか

- 「幸せである」と「まあまあ幸せである」を合わせた値は女性の方がやや高い(86%)
- どの年代も70%以上が幸せを感じているが、15～19歳の値が96%と最も高い
- 居住地区により、幸せを感じている割合が74%～88%の開きがある
- 出生地別による大きな差異はないが、「幸せである」と答えた割合が最も大きいのは県外出身者(40%)である

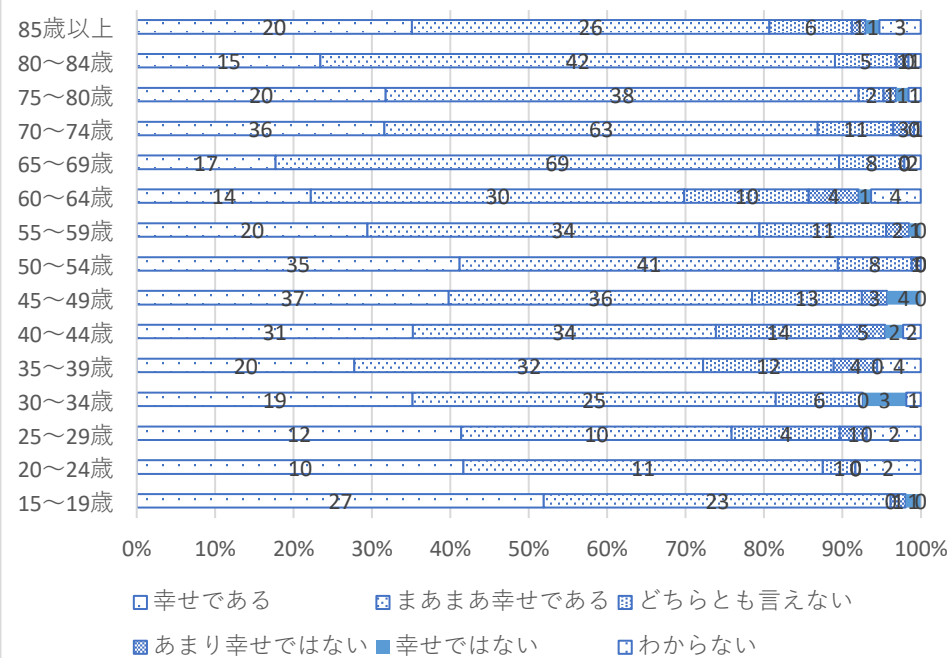
### 「住み良い」「住み続けたい」「愛着」「幸せ」の4指標によるクロス集計のポイント分析

- 女性は男性に比べて幸福感は高いが「住み続けたい」「愛着」が低い
- 年代別では4指標全てで25～29歳の値の低さが目立つ
- 居住地区別では4指標全てで新津第一中学校区の値の高さが目立つ
- 居住地区別の比較では「住み良い」「住み続けたい」の値が低い一方で秋葉区への高い愛着を示しているケースもある
- 出生地別では秋葉区生まれが「住み続けたい」「愛着」の値が高い
- 「住み良い」と「地域の助け合い」の間には一定の相関性が認められる
- 幸福感は概ねどの層も高いが、他の3指標との相関性は顕著ではない(「幸せ」が必ずしも「住み良い」「住み続けたい」「愛着」に結びついていない)

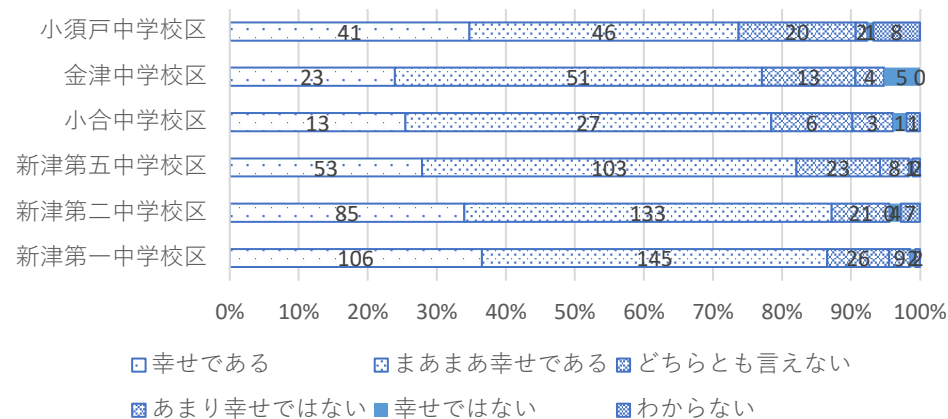
### 問19 あなたは現在幸せか (性別)



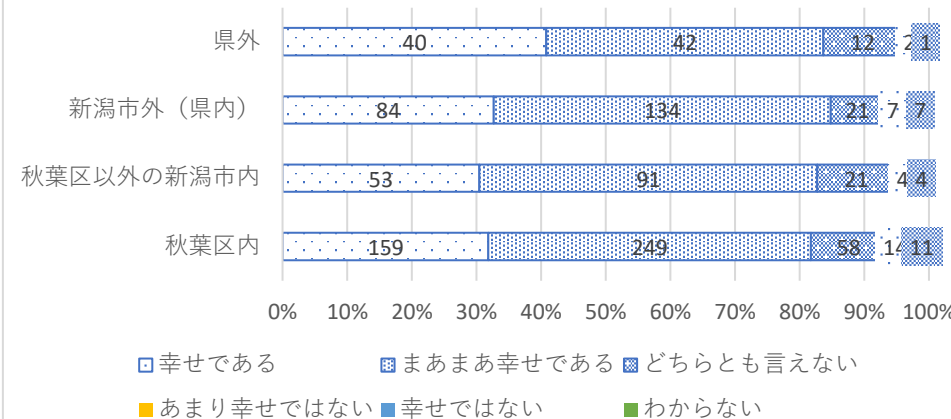
### 問19 あなたは現在幸せか (年代別)



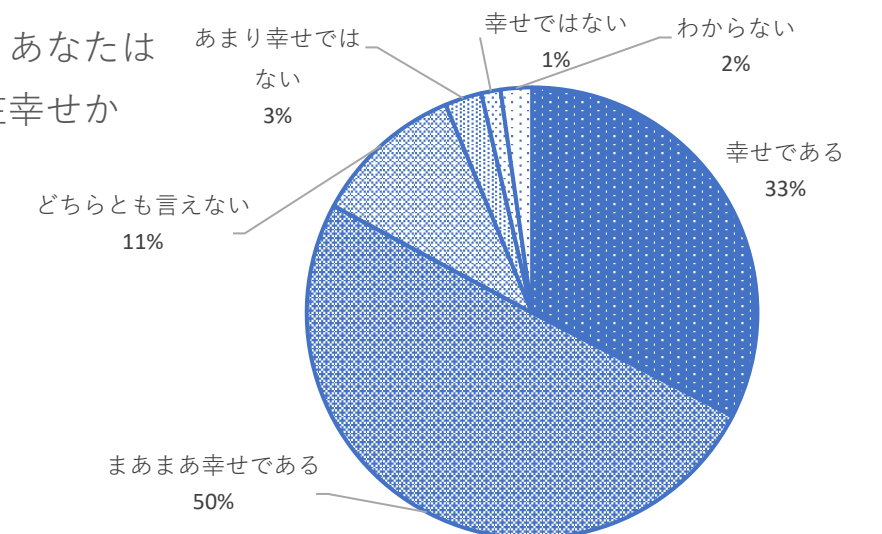
### 問19 あなたは現在幸せか (居住地区別)



### 問19 あなたは現在幸せか (出生地別)



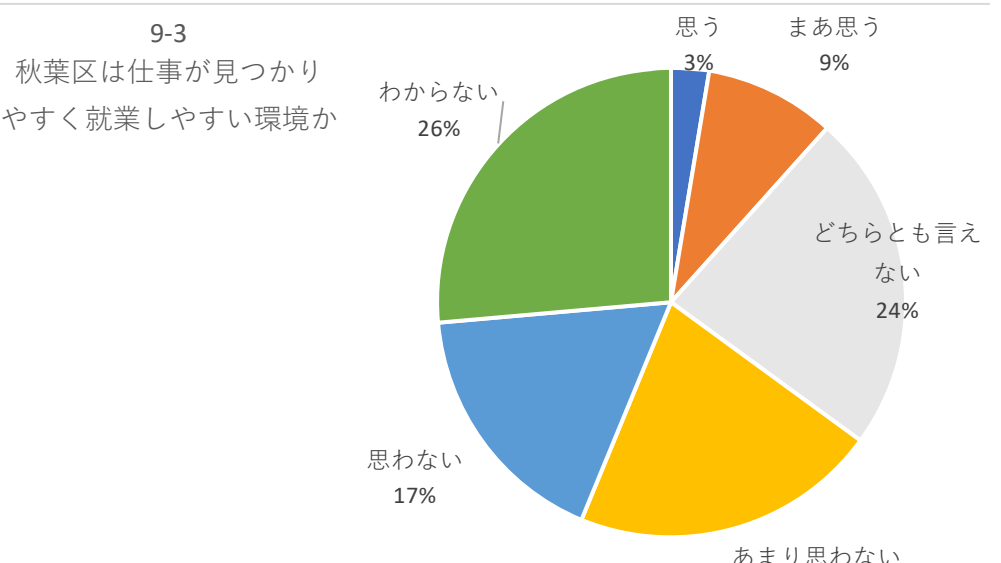
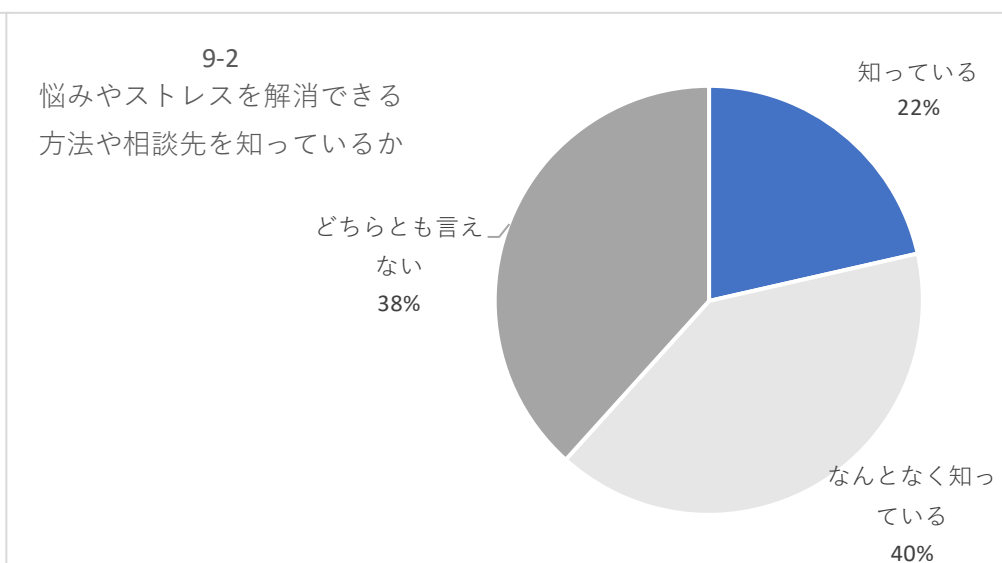
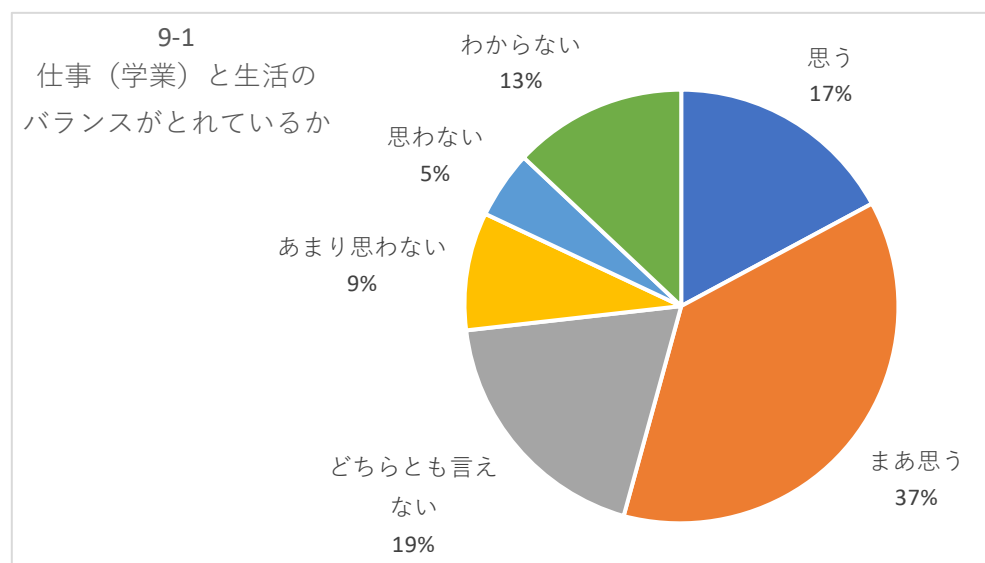
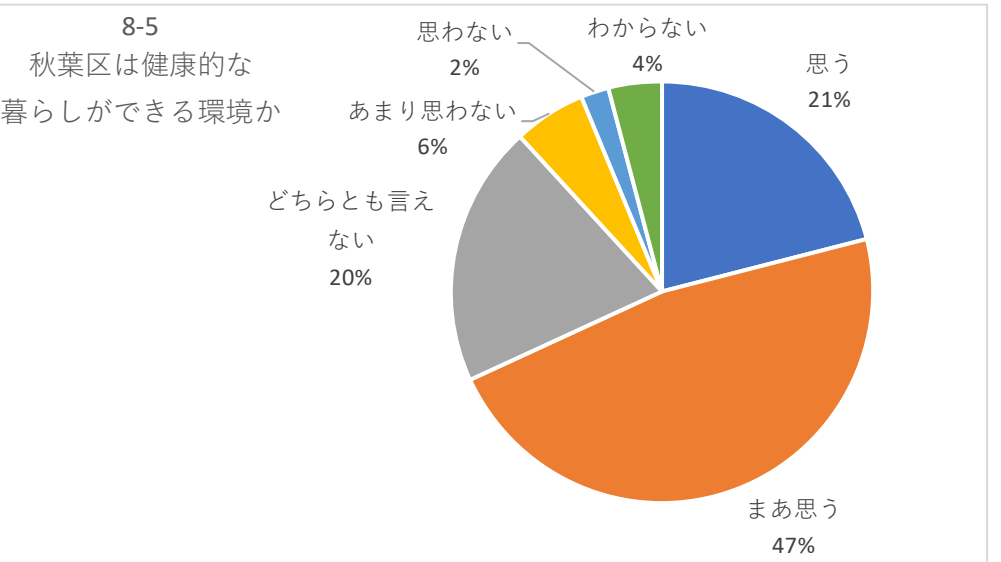
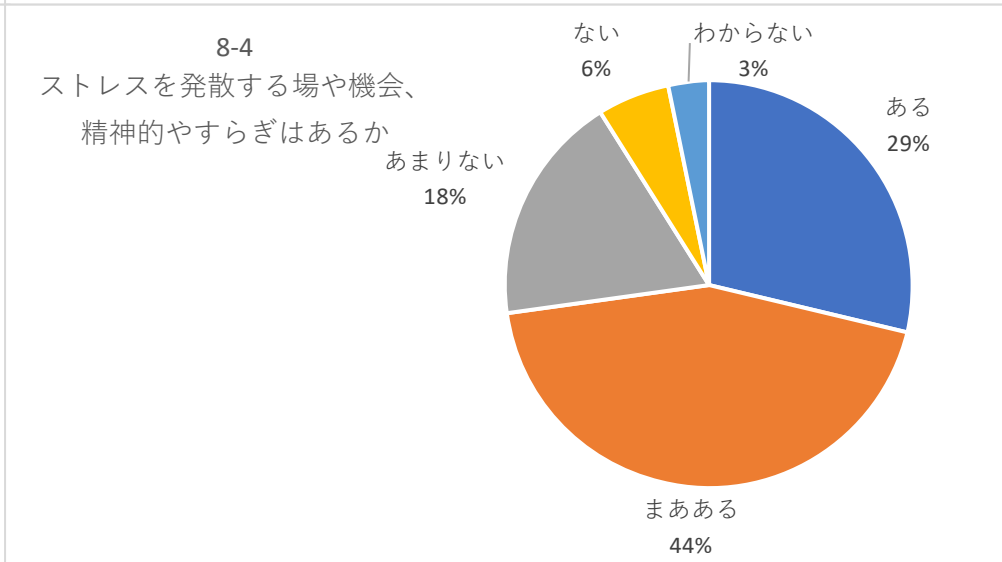
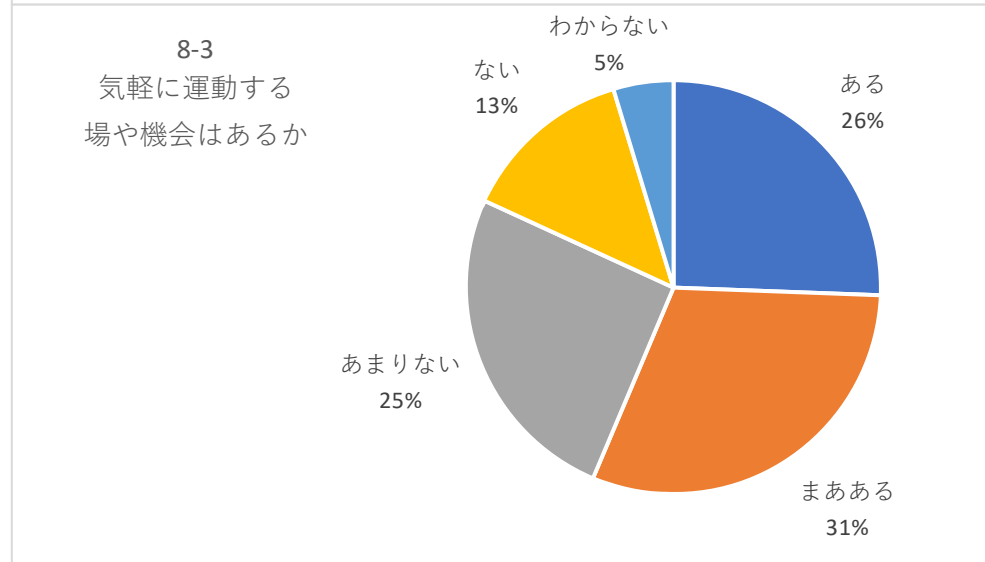
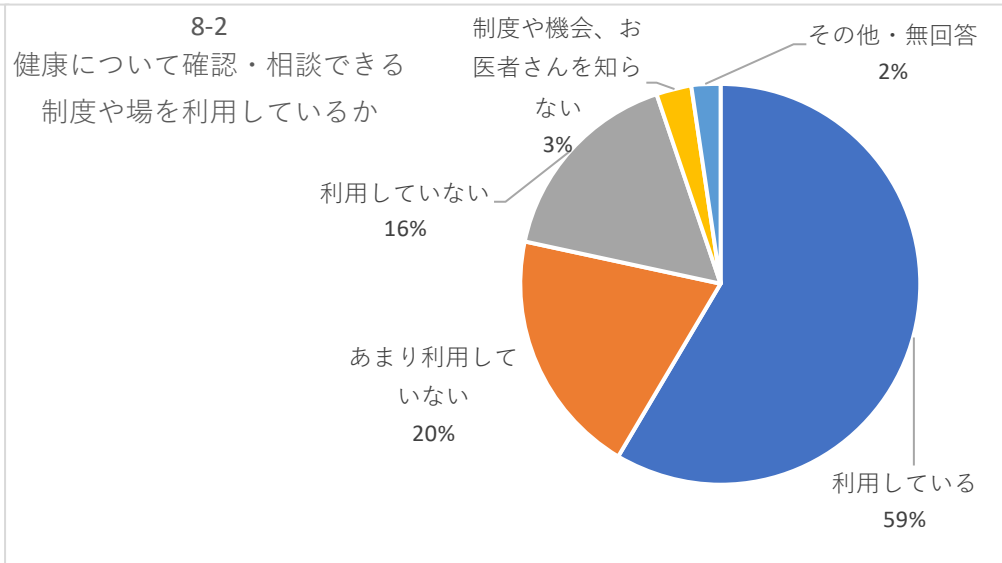
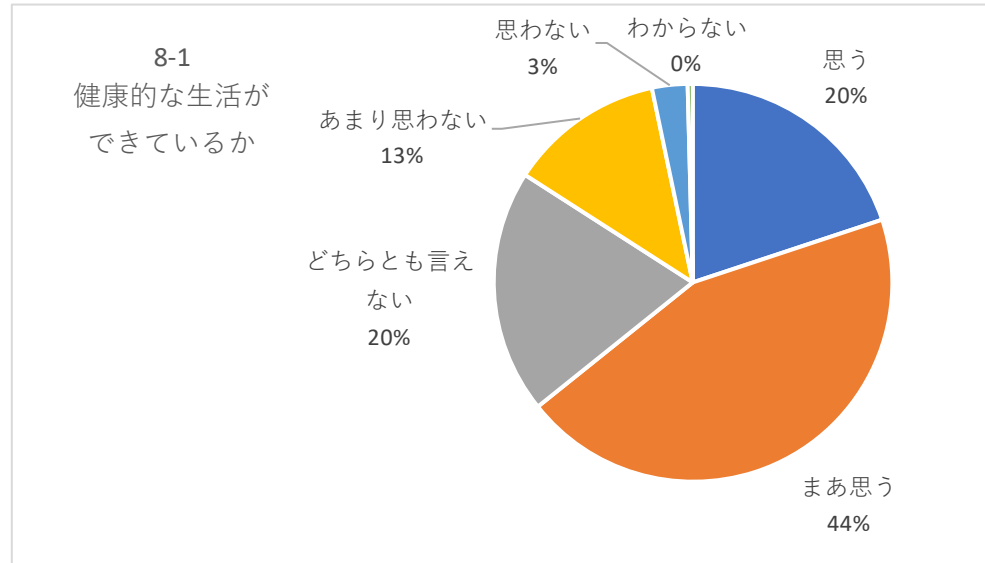
### 問19 あなたは現在幸せか





<問8・問9>

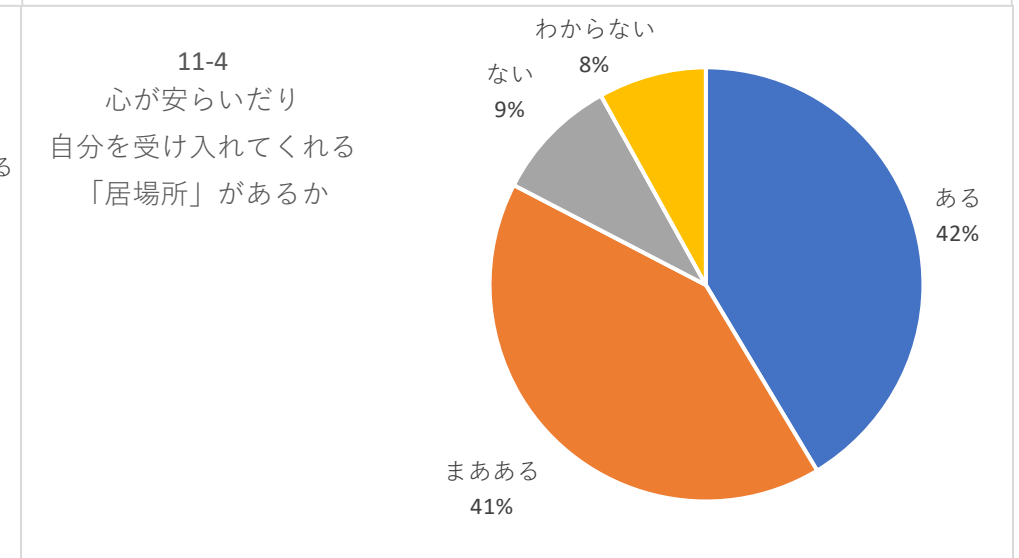
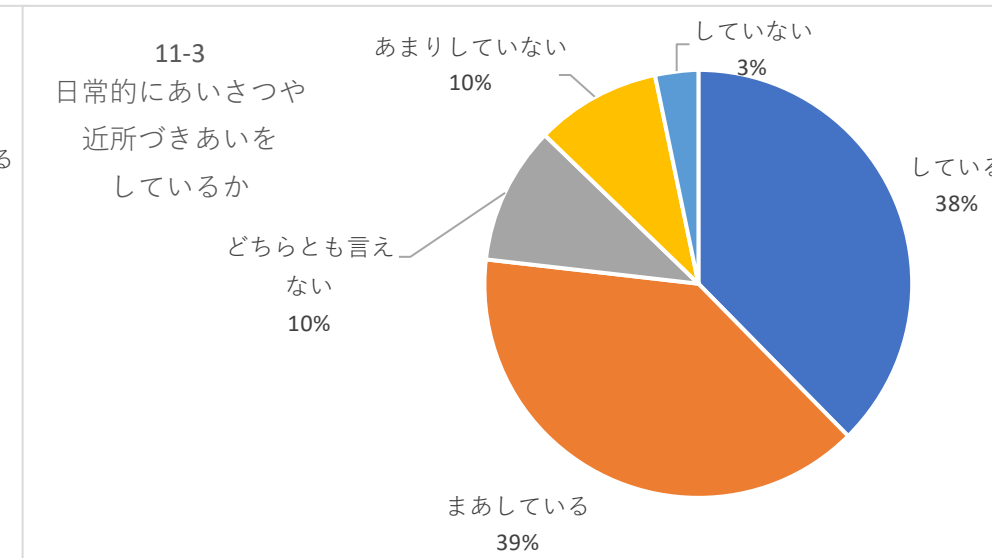
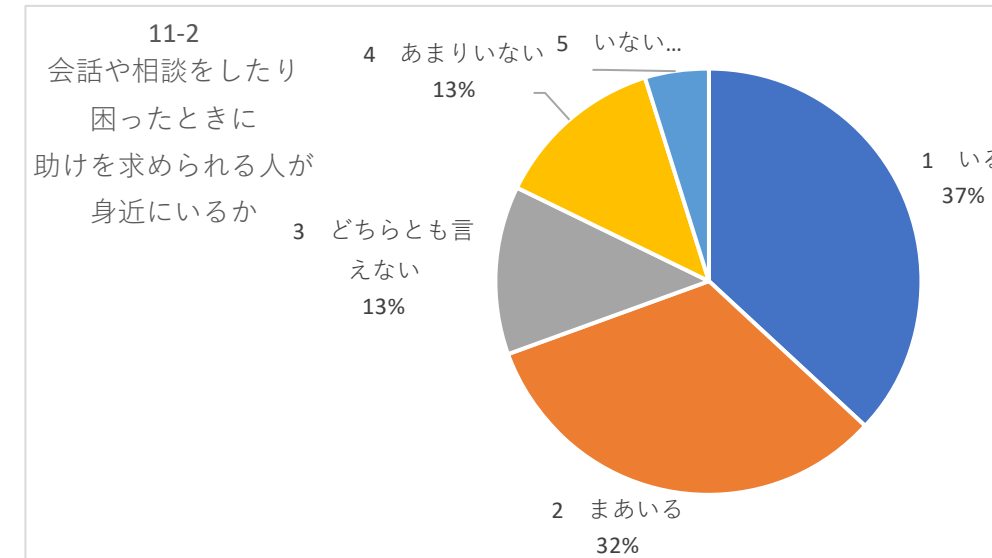
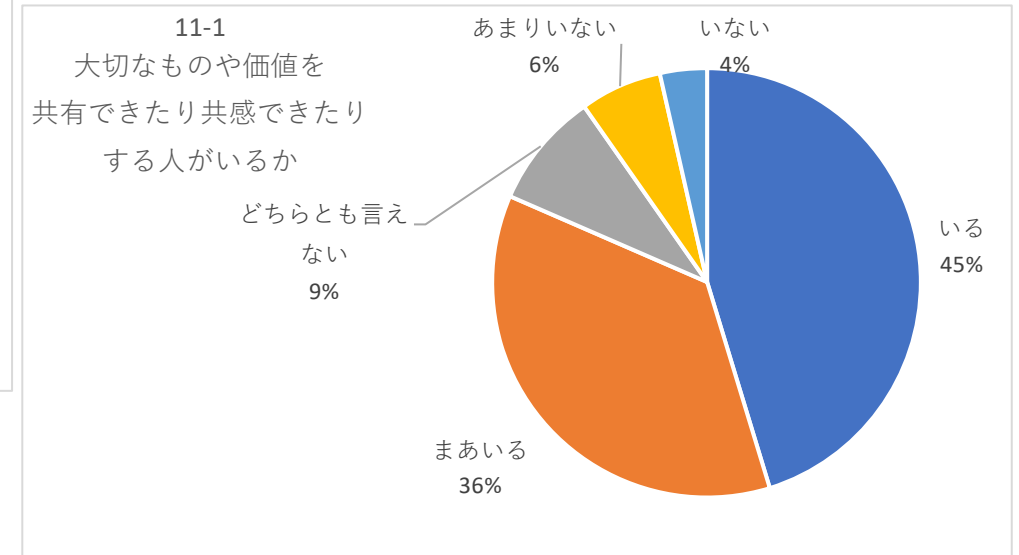
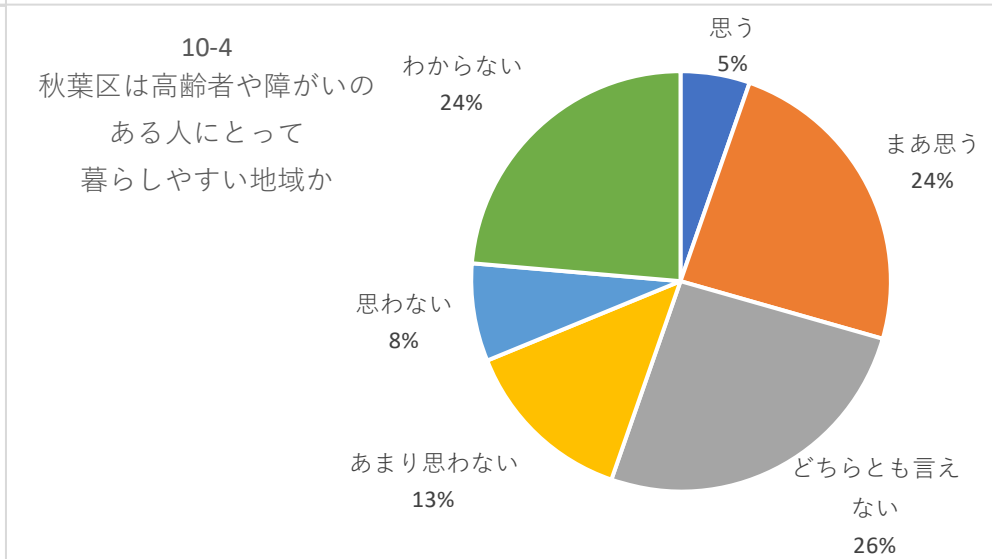
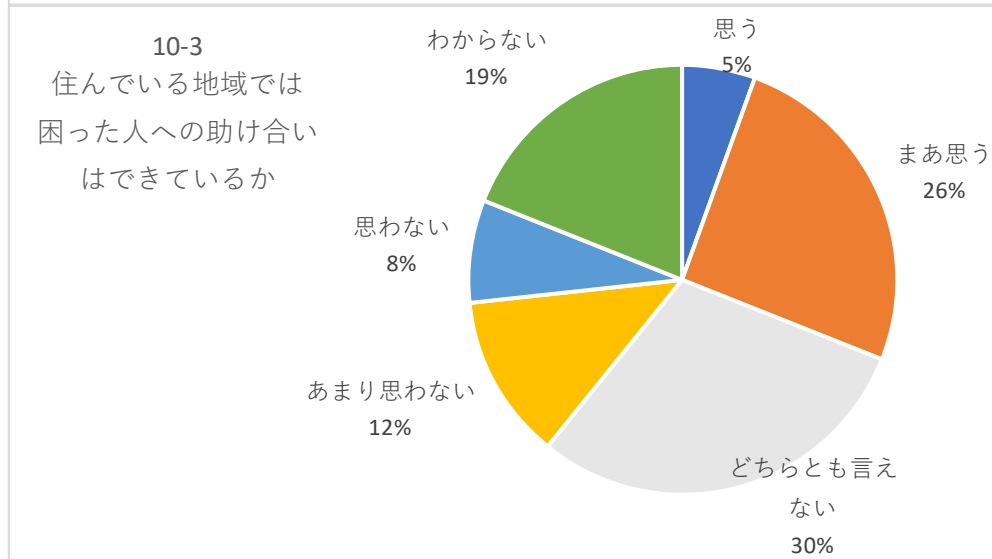
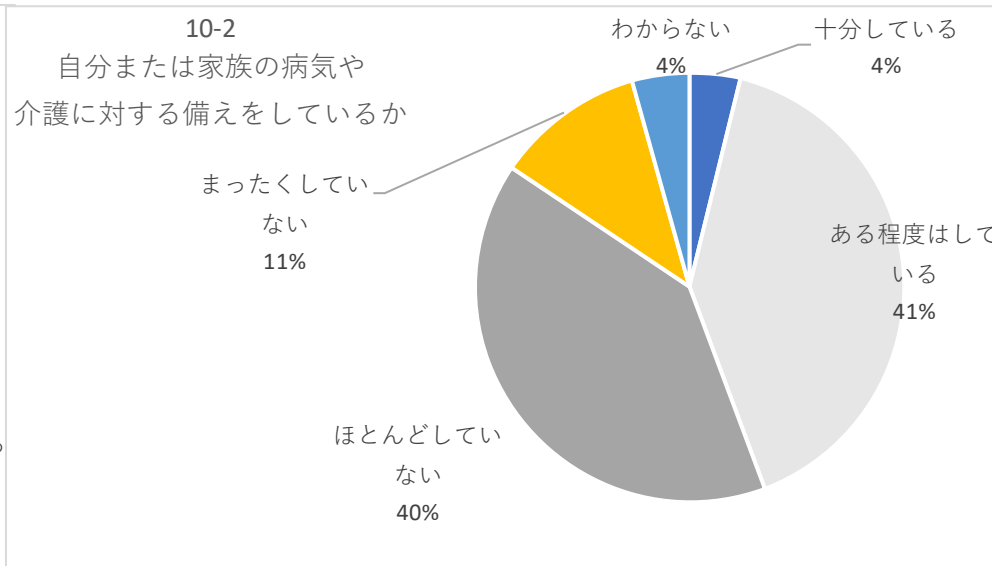
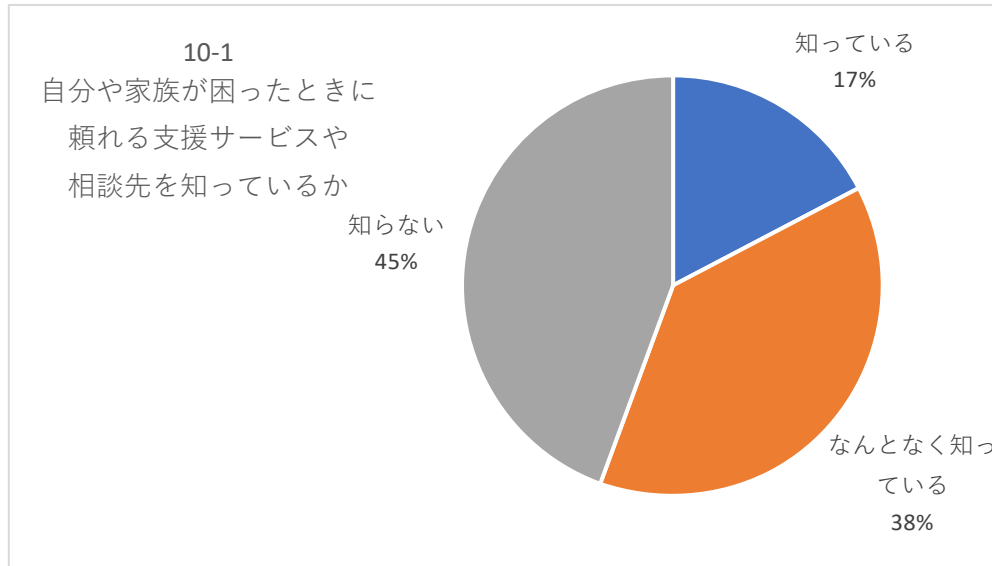
健康と仕事



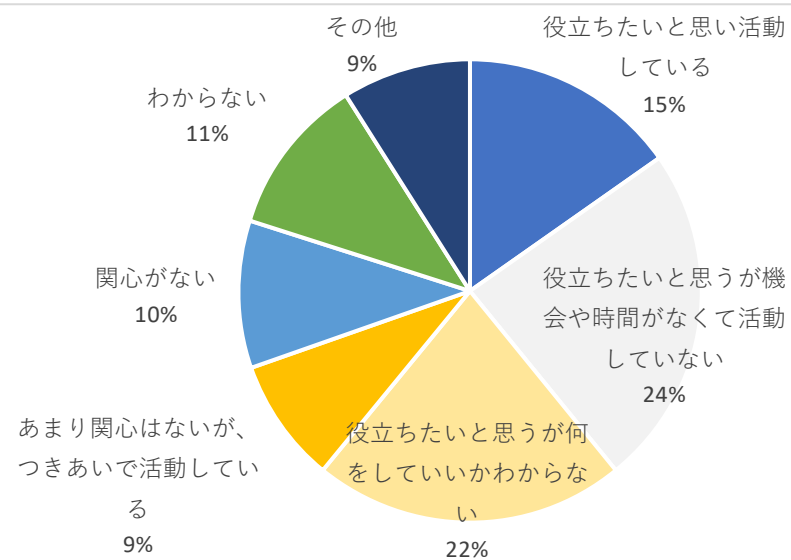


<問10・問11>

**困った時の備え  
助け合い・人間関係**



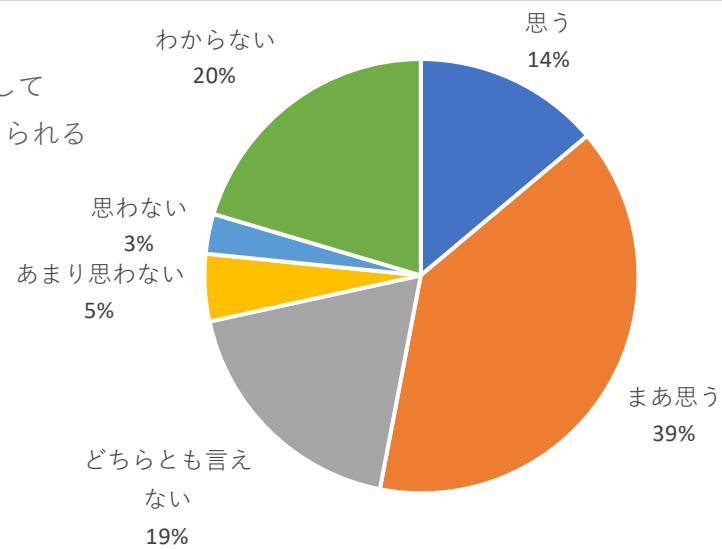
12  
社会のために役立ちたいと  
思っているか



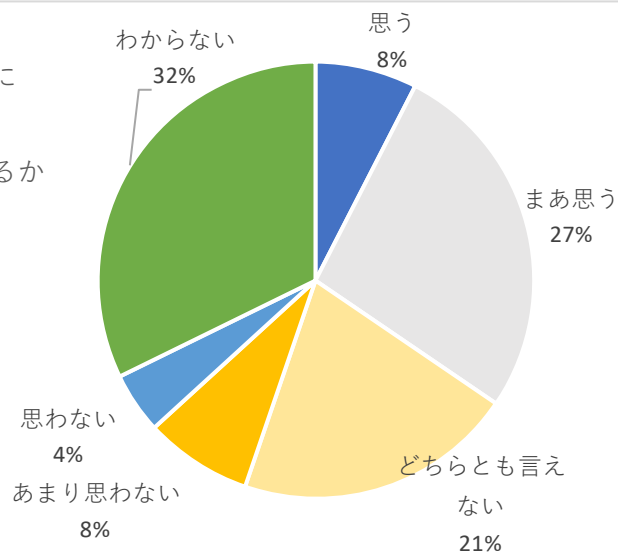
<問12・問13・問14>

**社会参画・子育て  
文化的な暮らし**

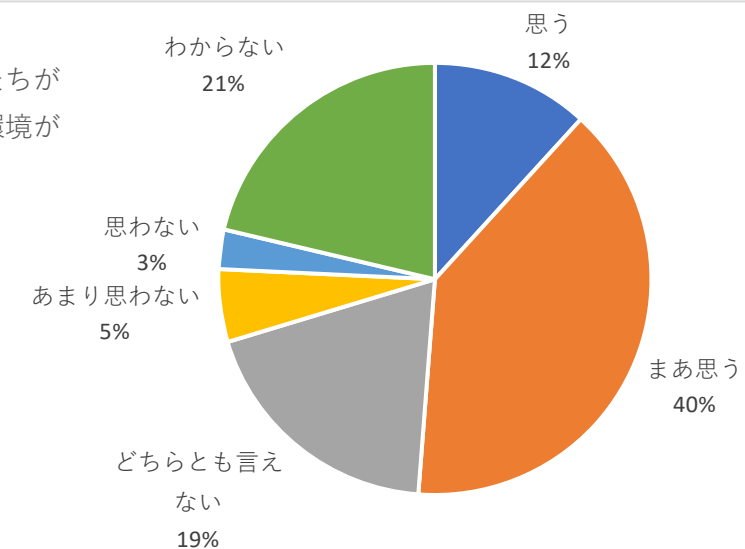
13-1  
秋葉区は安心して  
子どもを産み育てられる  
まちか



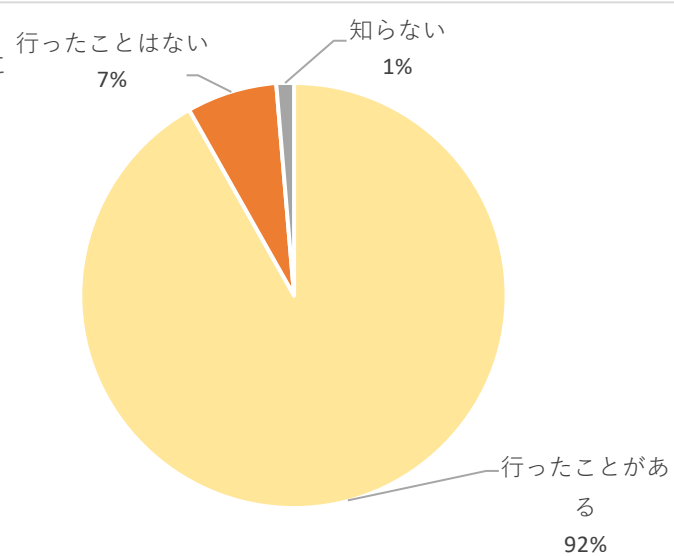
13-2  
秋葉区には子育てや教育に  
関するサービスや施設、  
相談できる機会が整っているか



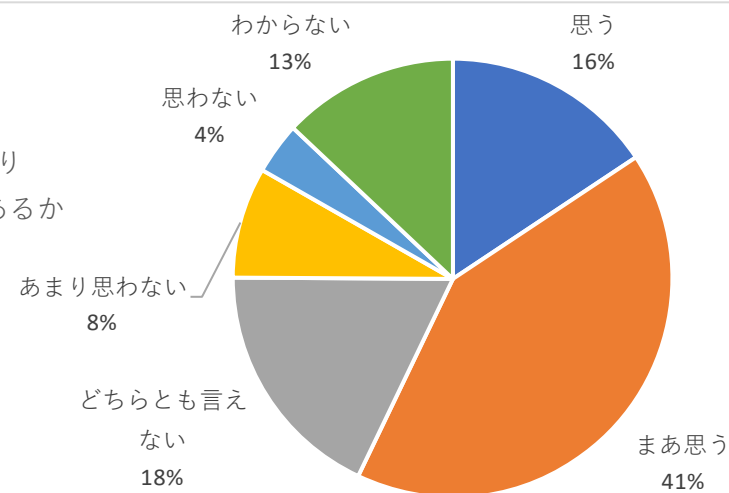
13-3  
秋葉区は子どもたちが  
生き生きと育つ環境が  
あるか



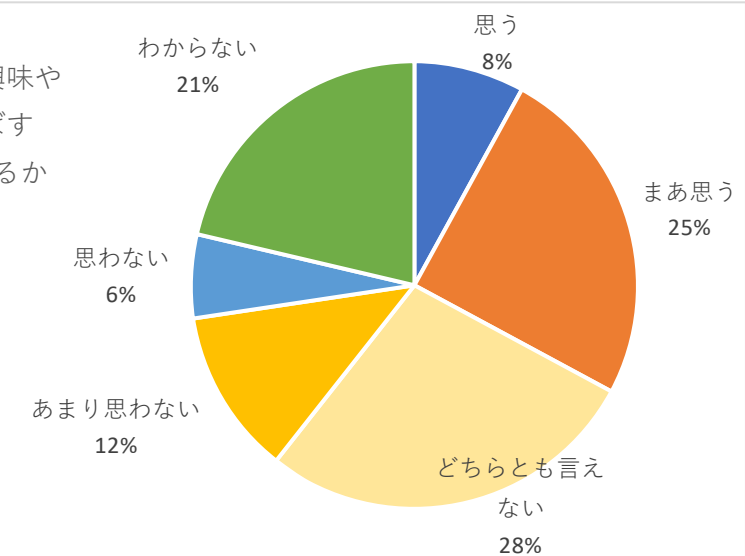
14-1  
秋葉区内の文化施設に  
行ったことがあるか



14-2  
秋葉区には  
歴史文化や  
芸術に接したり  
取り組む機会があるか

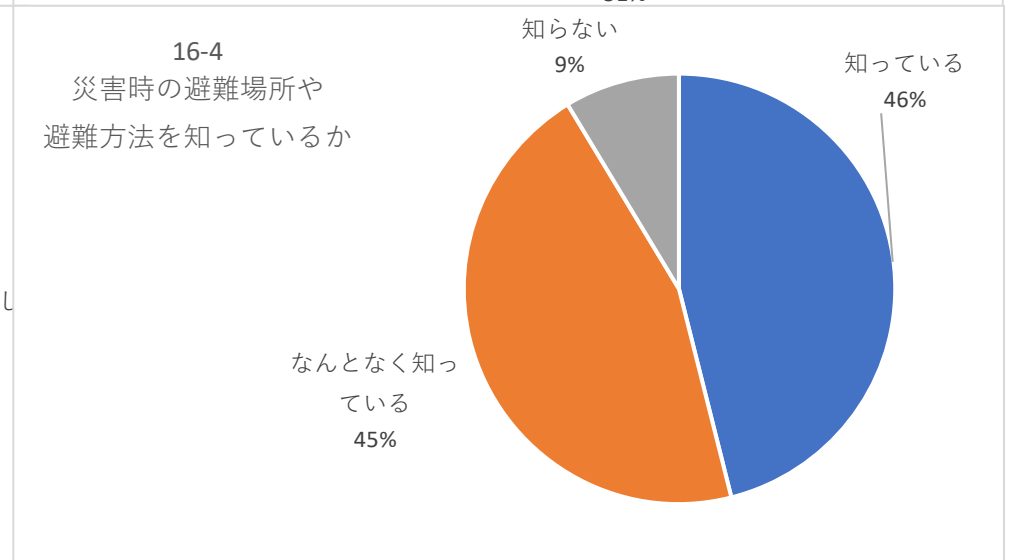
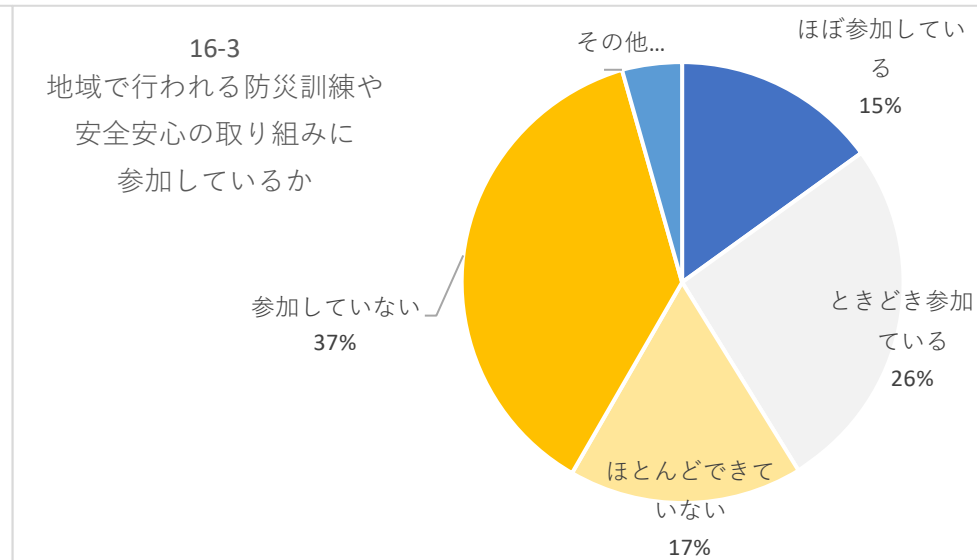
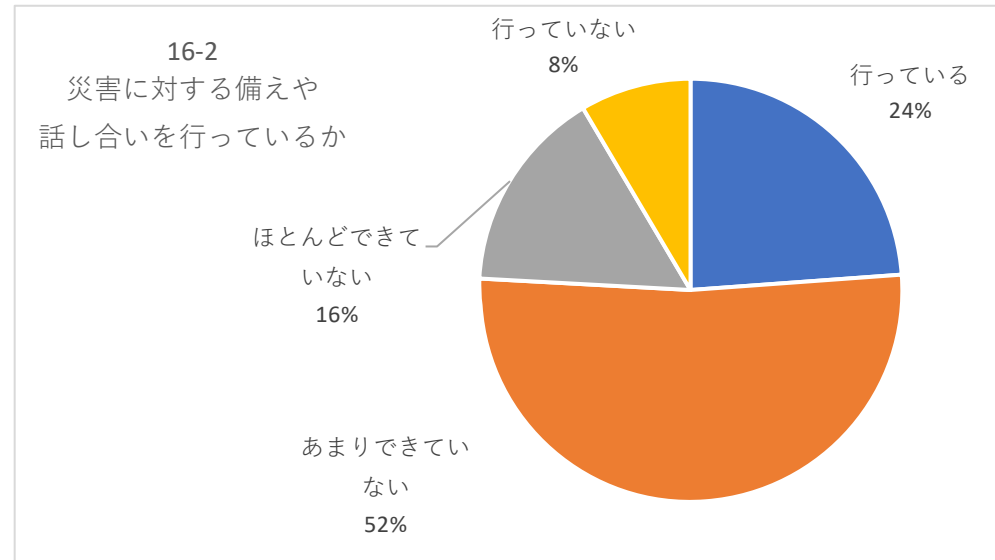
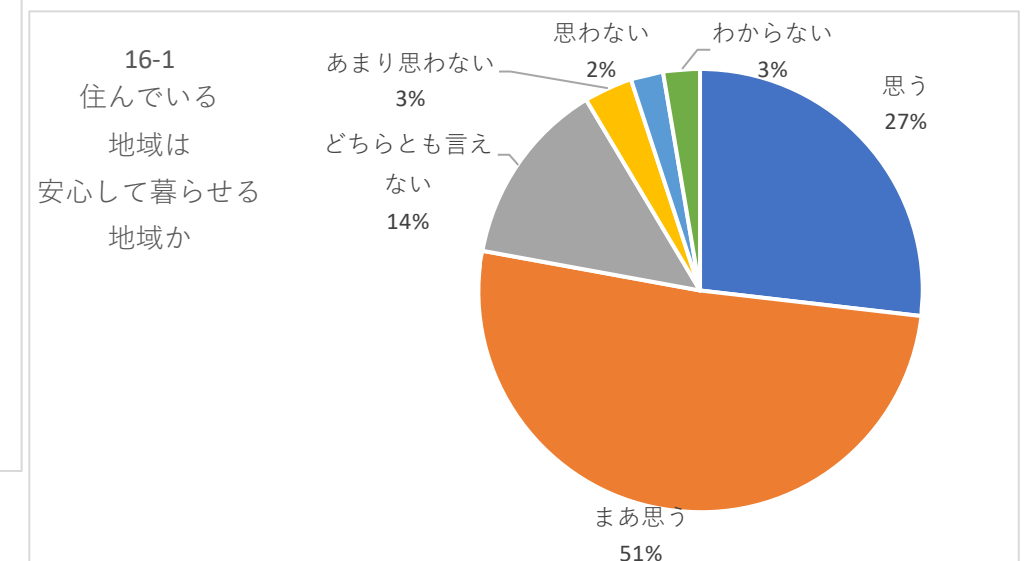
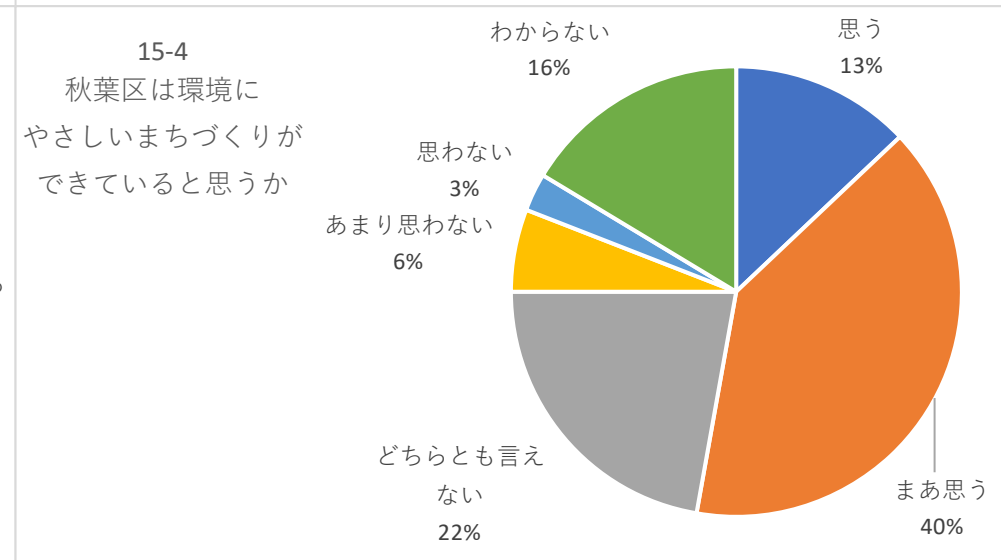
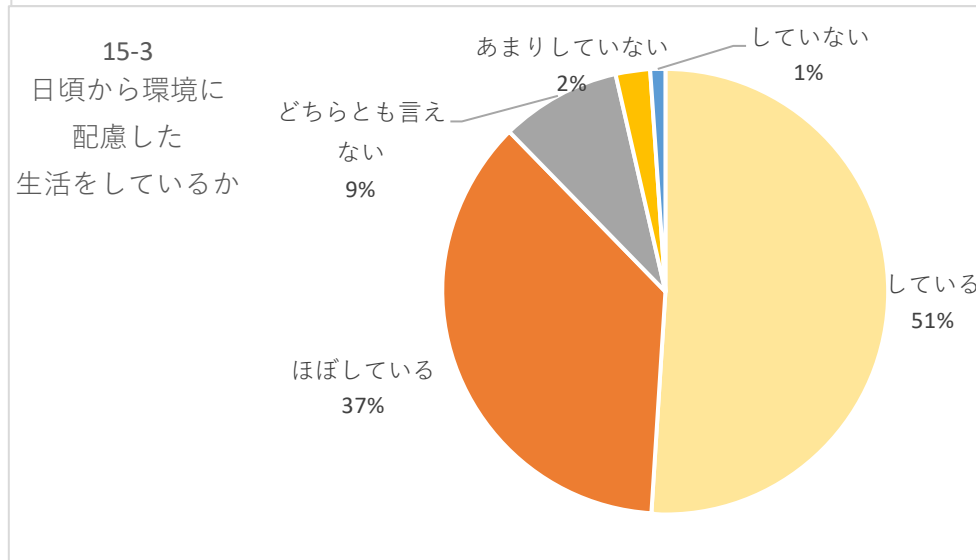
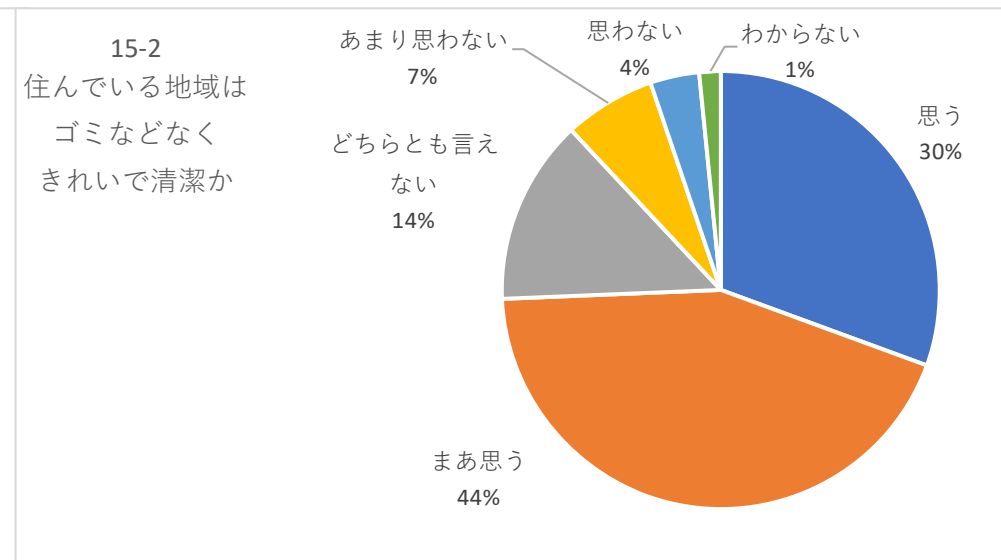
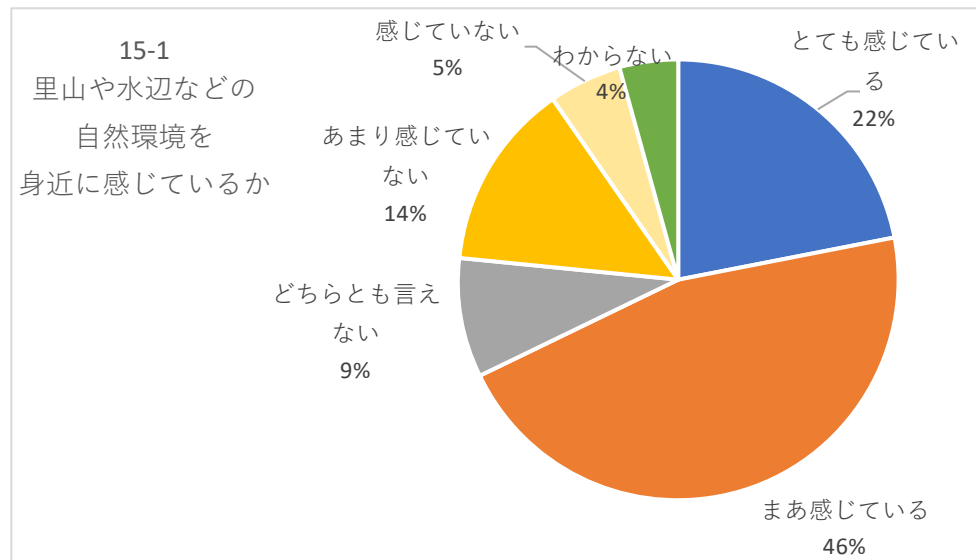


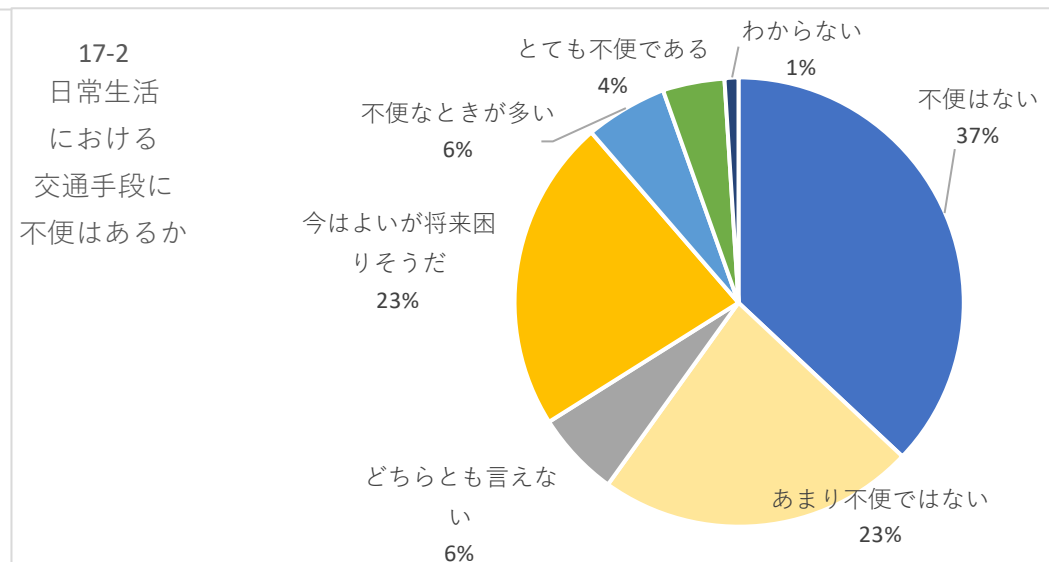
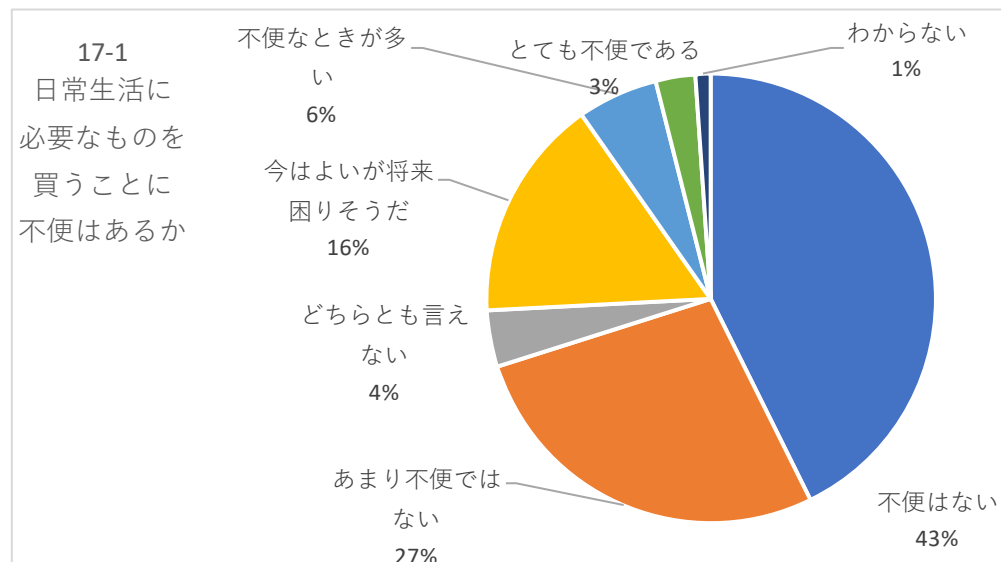
14-3  
秋葉区には知的興味や  
知識能力を伸ばす  
機会が整っているか



<問15・問16>

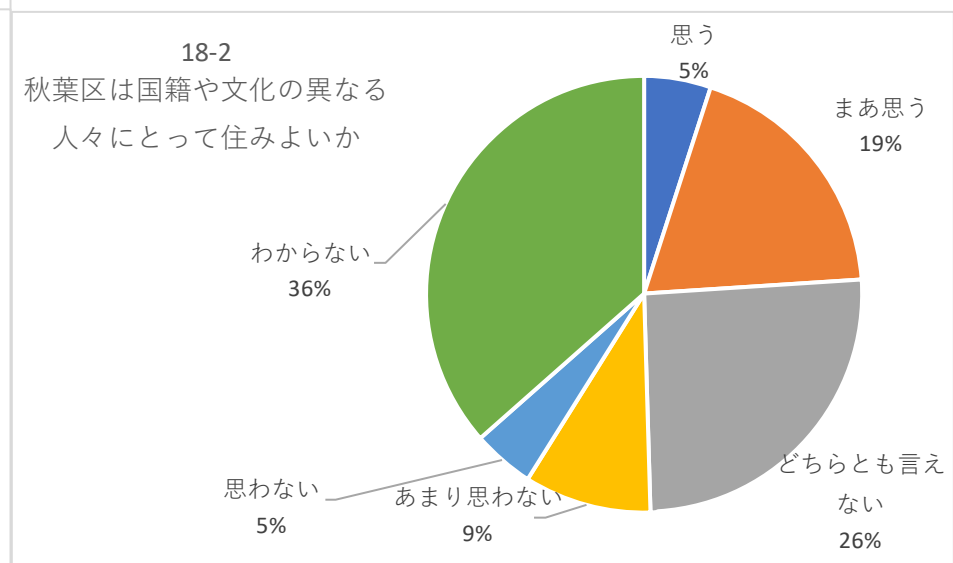
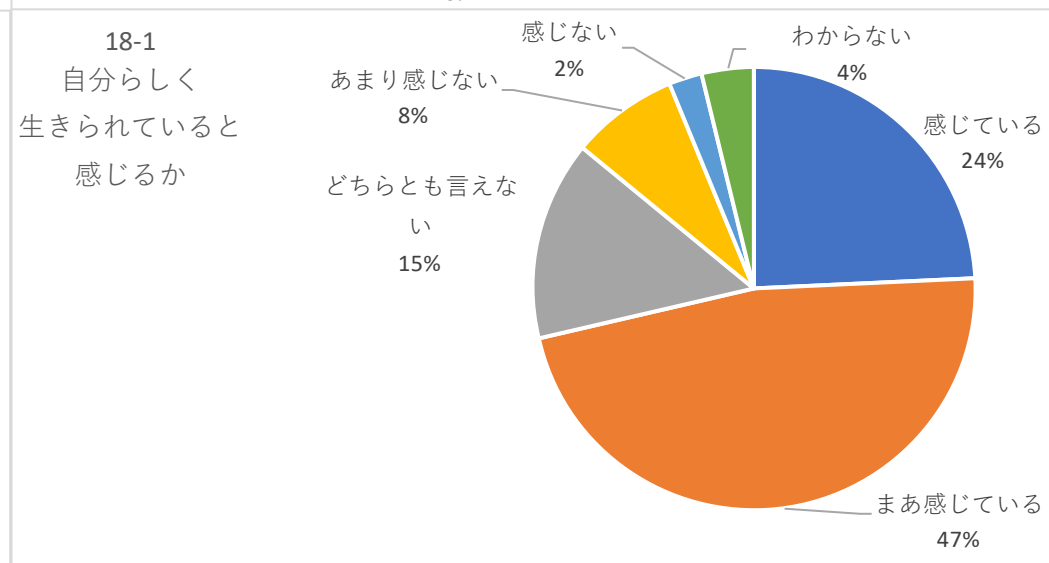
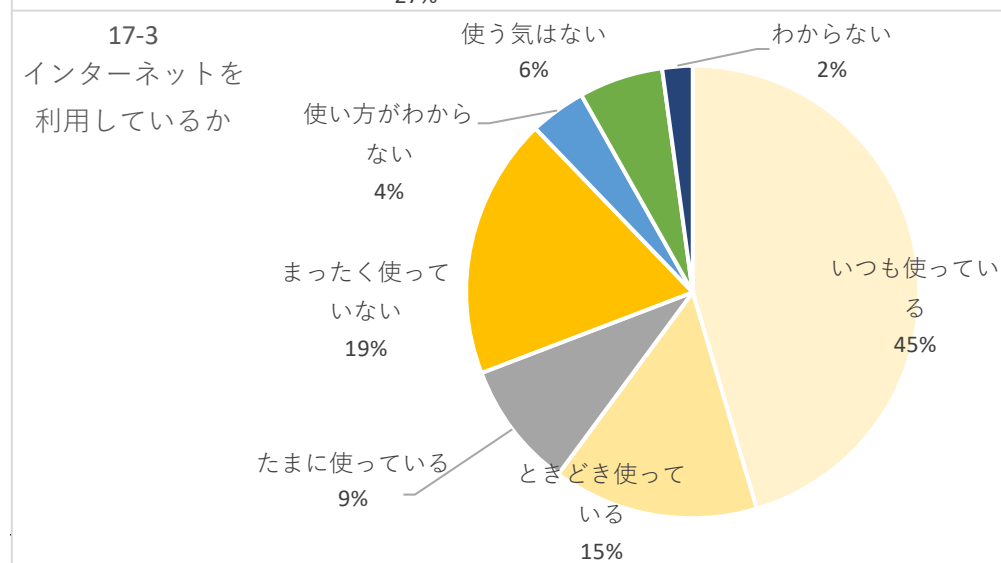
環境・安心・安全



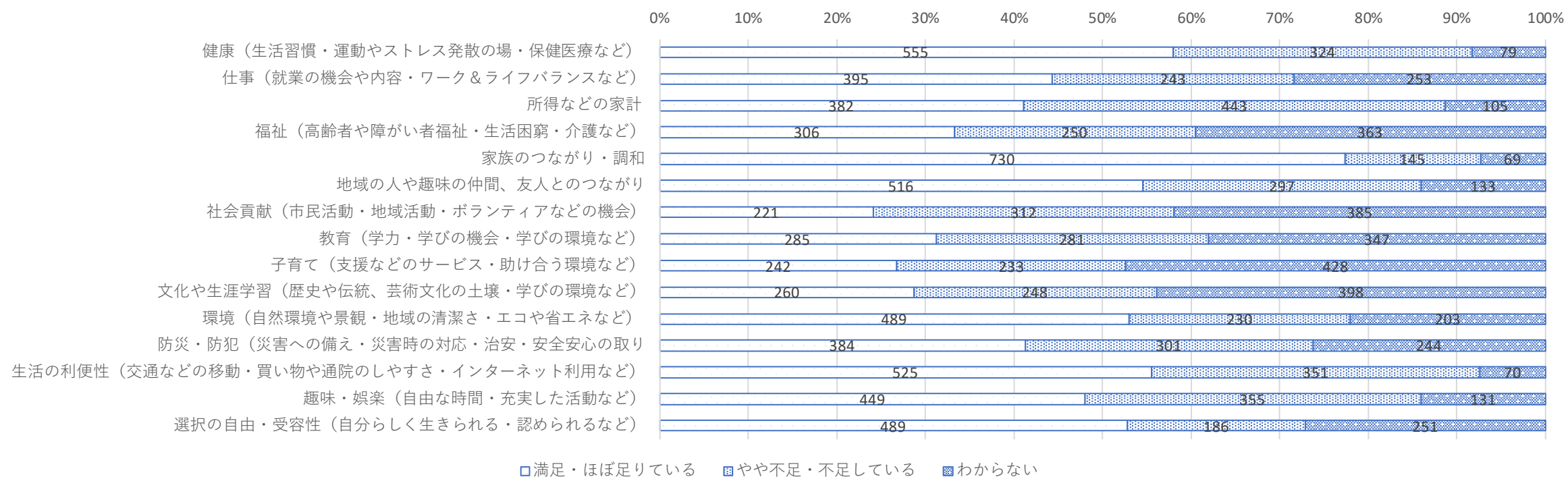


<問7・問17・問18>

## 生活の利便性 自分らしい生き方



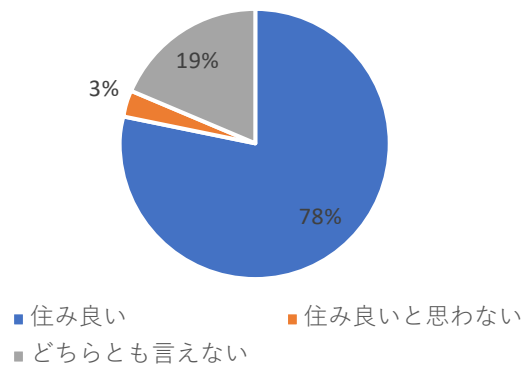
問7 「幸せ」の要素の満足度



# 中学生対象調査の結果概要

対象者 令和3年4月時点で秋葉区内の中学校に通う  
中学生1,966人  
回答数 478件（回答率24.3%）

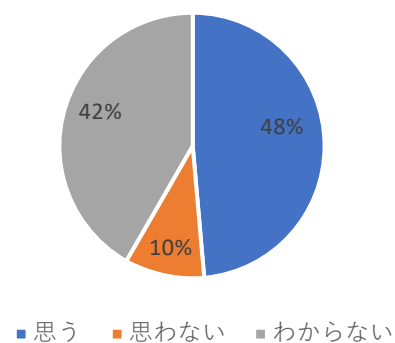
問2 秋葉区は住み良いか



<住み良い理由（上位回答）>

- 1位 自然豊か（174件）
- 2位 災害が少ない（147件）
- 3位 買い物や食事に便利（123件）
- 4位 犯罪が少ない（122件）

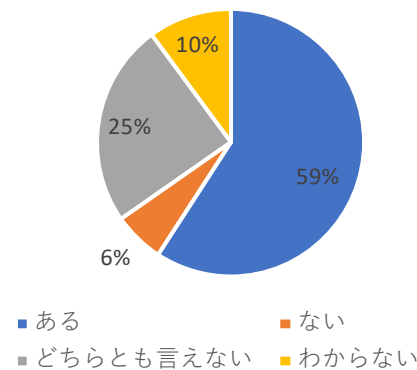
問3 秋葉区に住み続けたいと思うか



8-5 秋葉区は健康的な暮らしができる環境だと思うか

思う	49%
まあ思う	29%
どちらとも言えない	9%
あまり思わない	3%
思わない	2%
わからない	8%

問4 秋葉区に愛着があるか



9-1 学業と生活のバランスがとれていると思うか

思う	39%
まあ思う	34%
どちらとも言えない	13%
あまり思わない	5%
思わない	3%
わからない	6%

10-3 住んでいる地域では困った人への助け合いはできていると思うか

思う	27%
まあ思う	27%
どちらとも言えない	13%
あまり思わない	7%
思わない	6%
わからない	20%

11-4 心が安らいだり自分を受け入れてくれる居場所があるか

ある	64%	ない	3%
まあある	25%	わからない	8%

14-3 秋葉区には知的興味や知識能力を伸ばす機会が整っているか

思う	33%
まあ思う	24%
どちらとも言えない	11%
あまり思わない	9%
思わない	4%
わからない	19%

12 社会のために役立ちたいと思っているか

役立ちたいと思い活動している	20%
役立ちたいと思うが機会や時間がない	24%
役立ちたいと思うが何をしたいかわからない	33%
あまり関心はないがつきあいで活動している	3%
関心がない	4%
わからない	11%
その他	5%

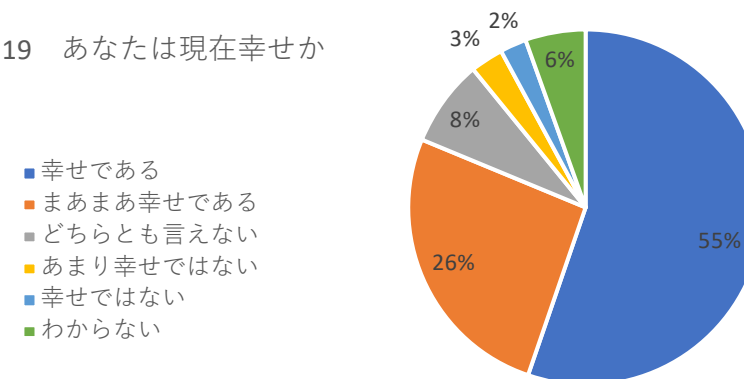
17-2 日常生活における交通手段に不便はあるか

不便はない	47%
あまり不便ではない	25%
どちらとも言えない	8%
今はよいが将来困りそうだ	6%
不便なときが多い	6%
とても不便である	3%
わからない	5%

16-3 地域の防災訓練や安心安全の取り組みに参加しているか

ほぼ参加している	31%
ときどき参加している	29%
ほとんどできていない	14%
参加していない	19%
その他	7%

問19 あなたは現在幸せか



<「幸せ」にとって重要なこと（上位回答）>

- 1位 健康（261件－満足度73%）
- 2位 趣味・娯楽（234件－満足度69%）
- 3位 家族のつながり・調和（187件－満足度82%）
- 4位 地域の人や趣味の仲間、友人とのつながり（119件－満足度80%）

15-3 日頃から環境に配慮した生活をしているか

している	48%
ほぼしている	31%
どちらとも言えない	15%
あまりしていない	3%
していない	3%

18-1 自分らしく生きられていると感じるか

感じている	46%
まあ感じている	31%
どちらとも言えない	8%
あまり感じない	5%
感じない	3%
わからない	7%

## 6. 総括

秋葉区民幸福度調査とは何だったのか？注目すべき成果は？

幸福度調査部会のメンバーがそれぞれの視点からこのプロジェクトをふりかえりました。

この調査は、自治協議会メンバーの献身的な努力に加え、秋葉区役所および大正大学との協働作業や、NPO 法人まちづくり学校による的確なアドバイスの結果として実現することができました。関わっていただいた皆様には心から御礼申し上げます。

私たちが大好きな秋葉区はそこに住む人々にとってどのような存在なのか？そんな素朴な疑問から始まったプロジェクトでしたが、これを通して区民の意識という目に見えないものを様々な角度から可視化することができました。これによって得られたデータは地域の未来を描く上で大変貴重なものであり、行政への提言や協議会内の議論の参考とするだけでなく、自らが行動していくための礎として、秋葉区ならではのまちづくりのために活用していきたいと思います。また、この成果を共有することにより、秋葉区を愛する幅広い個人・団体の皆様の活動の中に活かしていただければ幸いです。

金子 洋二

部会長

秋葉区自治協議会会長

秋葉区自治協議会の提案事業であるこのアンケート調査は、貴重な資料であると改めて思います。この部会活動で、調査項目の組立てを学び、また分析の積み重ねを段階ごとに見ることができ、このプロセスで多くを学びました。調査結果では特に環境に配慮した生活をしている人の割合が 88%に上っている。私たち秋葉区民が、この環境意識の高さを自覚することで、これからのまちづくりに生かせるのではないかと考えます。

長谷川 啓子

副部会長

このような大規模調査に企画段階から関与し、調査報告出来た事は貴重な体験であった。調査項目「住み良い」「住み続けたい」「愛着がある」の好結果により、8割を超える人達が幸せを感じているという『幸福指標』の高さに繋がり、更に特筆すべきは、県外出身者の6割が秋葉区に愛着を持っている事が示された事である。私たちの「秋葉区」も満更捨てたものではなく、この大切な意識基盤を活かして行く事にもっと力を注がなければならない。

荒井 武雄

「秋葉区民幸福度調査」は私の知る限りでは初めての調査であり、報告書にもあるとおり年代別、地域別など様々な条件に於いて分析されており大変すばらしい報告書だと思います。これは、金子会長の功績だと思います。この調査の成果を行政は多いに活用して問題点を点検し、自助・共助・公助のうち公助で区民がより暮らしやすい地域になる様な施策に役立てて欲しいです。

伊藤 治好

秋葉区民の幸福度調査に強い関心を持ってメンバーにエントリーしました。「幸せとは何か」を自分に問うことに始まり、この調査項目に議論を重ね、アンケート用紙の配布作業をメンバーみんなで黙々とやり終えた時は何とも言えない充実した気持ちになりました。調査の分析結果では「地域の助け合いについてやや心配」に注目しています。今ある立場でこの調査結果を今後どのように活かしていけばよいかを考えていきたいと思っています。

大貫 弘美

幸福度調査は多々実施されていますが、身近に感じられませんでした。この調査を秋葉区で実施したことで身近に感じ、区の実態が把握できたことは大変有意義でした。初回の実施のため傾向は今後の調査に任せるにし、今回性別、年代別、住居別、出生別にみたことでデータの比較ができました。今後、この幸福度調査データが行政や希望者に公開・有効活用され、区民の「幸せ」の尺度として幸福度アップに繋がる事を期待します。

坂口 憲夫

生活の利便性、自分らしい生き方の項目結果には予想外の数値。「日常生活用品の買い物に不便していない」や「交通手段に不便がない」など、当初の予想に反した集計結果に驚きでした。「自然豊かである」「犯罪が少ない」「災害が少ない」など相対的に幸福で住みやすい調査結果に表れた。ちなみに未回収の意見が気になるところです。

保科 代志夫

調査結果からは、区民の「安心・安全な居住環境」が確保されていることが明らかとなった。一方、就業環境の整備が不十分であること、日常の買い物への不安、子育てに関する情報提供・取得の課題が明らかとなった。また、青年期は他世代に比して地域への愛着が低く、地域とのつながりが希薄であると予測される。今後は、次世代を育成するという観点から地域課題をともに未来から考え、対話し、解決していくことが重要であると考えます。

渡邊 彩

令和4年（2022年）3月 秋葉区自治協議会幸福度調査部会